

大阪大学薬友会〔〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-6 大阪大学薬学部内〕  
TEL：06-6879-8246 E-mail：yakuyukai@phs.osaka-u.ac.jp

## 薬友会会長挨拶

薬友会会長 春 田 純 一（院23期）



皆さん、こんにちは！薬友会会長として3年目に入りました。今年はコロナの影響もほとんどなく、4月1日に新入生が元気に薬学部にやってきました。そして久方ぶりに薬友会主催の昼食会を学部新入生と開催しました。昼食会には小比賀幹事長をはじめ、各研究室からも先生方に参加していただき和気あいあいとした和やかな会でした。やはり食は人を和やかにします。対面の効果もあったと思います。薬友会主催の食事会や飲み会をもっと出来たらなぁと思ってしまいました。そういえば各大学の「同窓会に新しい息吹を」のスローガンの下、いろんな方法で試行錯誤した中で「課題ごとの食事会・飲み会が重要」と明記されているのを思い出しました。今後の薬友会の活動も対面を軸に行っていきたいと思っています。

昨年度は財政基盤の立て直しの一環としての「薬友会だより」への広告掲載が企業の方々のご協力により実現し、財政的に少し潤いました。一方、「薬友会だより26号」にも書かせていただいた「従来からの薬友会活動に加え、会員の皆様が心待ちするような何か新しいものを」と思い続けておりますが、具体的な活動が出来ておりませんでした。反省しております。

又、HPの充実も重要だと実感しております。若い世代は余りHPを見ないという風潮があるようですが、「薬友会HP」はその限りではないというデータを見る機会がありました。「薬友会HP」アクセス解析をGoogle Analyticsを用いて行いました。その結果、2018.1.1~2018.12.31（少し古いですが）1年間でユーザー数5,023人と出ました。2017年も同様の数字でしたので、予想以上に多くの方々にご覧いただいていることが分かり大変うれしい驚きでした。

今年度も引き続き財政基盤の充実を図ることはもちろんですが、若手役員を中心としたワーキンググループを立ち上げて「ベテランから若手の会員、更には学部・大学院の在校生の方々にも薬友会運営に参画していただき、今皆様が、薬友会に何を求めているのか、もっと楽しい充実した交流を図るためには何が必要か」等、今までやれていなかった色々なことを出来ることから実行していきたいと思っています。それには会員皆様のご理解とご協力が欠かせません。今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



# 研究科長ご挨拶

薬学研究科長・薬学部長 小比賀 聡

大阪大学薬友会の会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年4月から薬学研究科長・薬学部長を拝命しております小比賀でございます。薬学研究科・薬学部を代表し大学の近況をご報告させていただきます。

平成18年に開始された6年制薬学教育制度のもと、大阪大学薬学部では、4年制学科（55名）、6年制学科（25名）の2学科体制を続けてきましたが、ご承知のとおり平成31年度に抜本的な教育制度改革を実施し、研究型6年制学科（80名）への一本化を図りました。この新しい薬学教育制度では、大阪大学Pharm.Dコース、薬学研究コース、先進研究コースの3コースを設け、薬剤師養成のための教育と研究力の涵養を両輪とする研究型全6年制教育を通じて、薬学研究、医薬品開発、医療、医薬保健行政等の分野におけるグローバル人材の育成に取り組んでまいりましたが、この新たな薬学教育制度のスタートから早5年が過ぎ今年度はいよいよ6年目となりました。大阪大学Pharm.Dコース並びに薬学研究コースの一期生は最終学年（6年生）を迎え、卒業に向けてそれぞれ勉学や研究、実習に励んでいます。また、先進研究コースの一期生たちは、学部を一旦休学し大学院（博士課程）に入学し、現在は博士2年生として研究に勤しんでいます。この研究型全6年制をさらに充実させ、成功に導くことは、大阪大学薬学部のみならず、我が国の薬学教育・研究の持続的発展にとって極めて重要な意味を持つものと信じ、今後とも教職員一丸となり一層努力していく所存です。

研究面では今年度も多くの成果があがっています。創薬研究に目を向けると、AMED生命科学・創薬研究支援基盤事業（BINDS Phase II）の支援の下、大阪大学薬学研究科はわが国屈指のアカデミア創薬拠点へと成長しています。この事業において、最新の設備・機器が多数導入されています。また当研究科は、アカデミアで唯一J-PUBLICコンソーシアムと連携し、アカデミア最大規模の化合物ライブラリー活用基盤の構築にも努めています。感染症に対する研究開発は大阪大学をあげて取り組んでいるところですが、

薬学研究科においても大阪大学ワクチン開発拠点先端モダリティ・DDS研究センター（CAMaD）や大阪大学感染症総合教育研究拠点（CiDER）と連携し、新興感染症の制圧を目指した多くの共同研究プログラムを精力的に進めています。誌面の都合上ここでは一部しかご紹介できませんが、個々の研究成果については大阪大学薬学研究科HPにも掲載していますので、そちらも是非ご覧ください。

教授に係る人事としましては、令和6年4月に上田卓見先生が、定量生命物理化学分野（定生）の教授に着任されました。創薬標的となるタンパク質の動的な立体構造を解析し、その活性制御機構を定量的に解明することで、生命現象への理解を深めこれからの創薬に繋げていこうとする上田教授の研究は国際的にも高く評価されています。一方で、高分子化学分野（物化）の大久保忠恭教授が、令和6年3月に定年を迎えられました。大久保先生には、多くの臨床系の講義や実務実習事前学習、OSCEの運営など薬学部6年制教育に大変ご尽力いただきました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。また、共同利用機器室の青山 浩准教授が順天堂大学薬学部に、神経薬理学分野（薬理）の笠井淳司准教授は名古屋大学環境医学研究所に、分子生物学分野（生化）の櫻井文敦准教授は近畿大学薬学部に、同じく分子生物学分野（生化）の立花雅史特任准教授は立命館大学生命科学部に、医薬合成化学分野（合成）の村井健一講師は和歌山県立医科大学薬学部に、それぞれ教授としてご栄転されました。新天地での益々のご活躍を祈念いたします。

今年度の薬学研究科／薬学部の執行部は、小比賀と副研究科長の辻川和丈教授、評議員の福澤 薫教授、研究推進会議議長の水口裕之教授、および学務会議議長の齊藤達哉教授で担当いたします。大阪大学薬学研究科・薬学部の伝統を守りつつ、新たな研究型全6年制の完成に向けて、全力で取り組んでまいります。皆様におかれましては、引き続きご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。



# 大久保忠恭教授 最終講義

高分子化学分野教授 大久保忠恭先生が、2024年3月31日をもって退職されました。大久保先生は、平成10年12月に大阪大学大学院薬学研究科の助教授に着任され、平成23年10月からは教授として高分子化学分野を主宰され、物理系薬学分野における研究と教育に多大な貢献をしてこられました。大久保先生の退職に際し、2024年3月14日（木）15:00～16:30、薬学部1号館4階 サワイホールにて最終講義が開催されましたので報告いたします。冒頭、小比賀聡薬学研究科長からご挨拶をいただき、大久保先生の略歴をご紹介いただきました。続いて大久保先生から「溶液NMRによるペプチド・タンパク質の立体構造決定」と題して、最終講義が実施されました。大久保先生は、核磁気共鳴法（NMR）を用いた溶液中におけるペプチドの立体構造解析に、その方法論開発の黎明期より携わってこられました。その後、NMRをより分子量の大きなタンパク質の構造決定へと応用されるとともに、様々な物理化学

的手法やX線結晶構造解析法を組み合わせられ、今日に至るまで多種多様なタンパク質の構造機能相関を解明されてこられました。講義ではその道程について、アカデミックなスタイルで詳細にご紹介いただきました。会場には数多くの教職員・卒業生並びに現役学生・共同研究者の方々にご出席を賜りました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。ご講演の後、在学中の学生から花束が贈られ、盛大な拍手で大久保先生の最終講義が締めくくられました。同日、場所を移して茶話会が開催され、先代の分野主任であった大阪大学名誉教授小林祐次先生も交えて、これまでの研究に纏わるエピソードや、研究室での思い出話に花が咲き、瞬間に記念撮影の時間を迎えました。最後になりますが、今後の大久保忠恭先生のご健勝を祈念し、最終講義の報告とさせていただきます。

（文責：吉田卓也）



## 新任教授紹介

大阪大学大学院薬学研究科  
定量生命物理化学分野 教授

上田 卓見



2024年4月1日付で、定量生命物理化学分野の教授に着任いたしました。この場をお借りしまして、薬友会の皆様にご挨拶申し上げます。

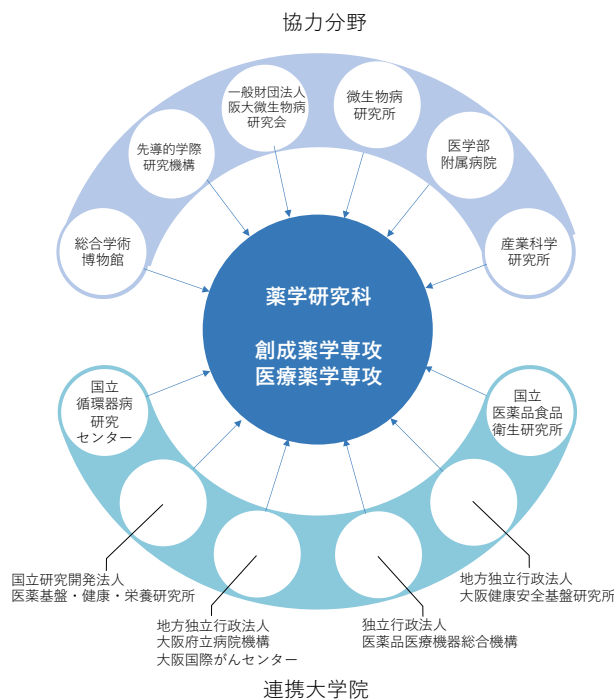
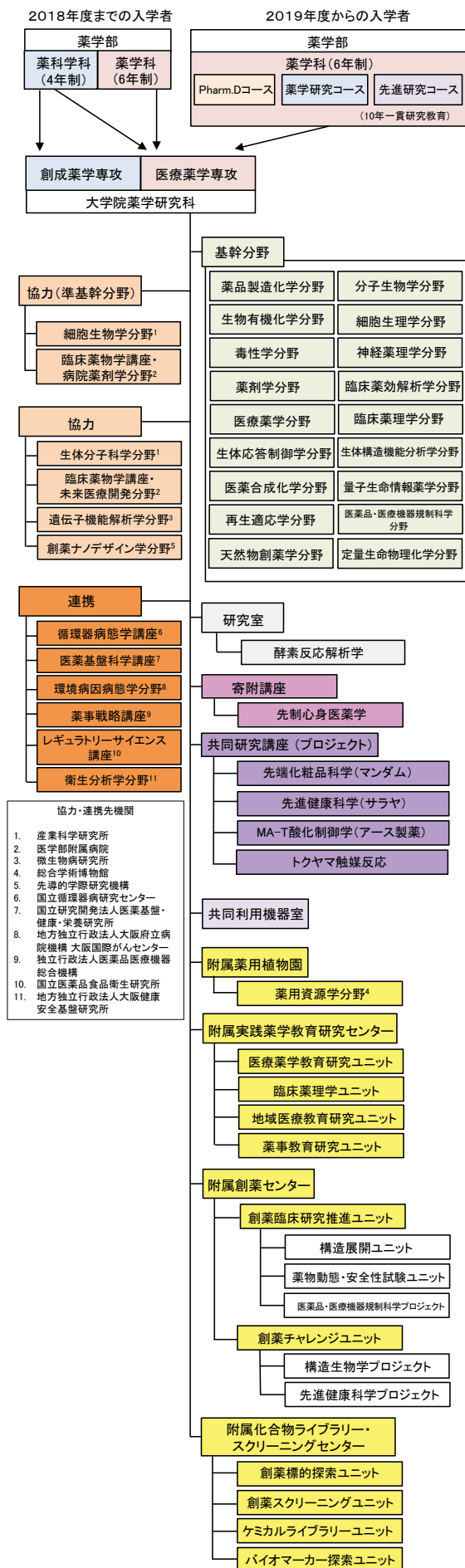
私は、福岡県の出身で、1993年に北九州市立折尾中学校、1996年に久留米大学附設高等学校、2000年に東京大学薬学部を卒業した後、東京大学大学院薬学研究科の嶋田一夫教授（現理化学研究所生命機能科学研究センターチームリーダー・広島大学大学院統合生命科学研究科長）の下で、核磁気共鳴（NMR）法による光回復酵素の反応機構解明の研究を行い、2005年に薬学博士の学位を取得しました。その後、バイオ産業情報化コンソーシアム特別研究員（2005年）、東京大学大学院薬学系研究科寄付講座教員（2007年）、助教（2008年）、准教授（2019年）を務めてきました。2013年から2017年には、科学技術振興機構さきがけ研究員を兼務しました。以上のキャリアの中で、私は、核磁気共鳴法（NMR法）を用いて、Gタンパク質共役型受容体（GPCR）等の創薬上重要なタンパク質の機能を解明する研究を、一貫して行ってきました。

くすりの受容体となるタンパク質は、立体構造をたえず変化させることで、生理機能を発揮しています。NMR法では、生理的環境に対応する溶液条件下において、タンパク質がどのような構造の間を、どのような割合や速度で交換する動的構造平衡状態にあるか、という定量的な時空間情報を得ることができます。一方、GPCRは、分子量が大きく安定性が低いため、NMR法の適用が困難で、得られる情報も限られます。私達は、新たな解析法、測定法、試料調製法を開発することで、この問題を克服してきました。例えば、機械学習の手法である交換モンテカルロ法を利用することで、NMRシグナルから得られる情報を最大化し、構造平衡の存在割合や交換速度を定量的に抽出することを可能にしました。その上で、GPCRの動的な構造平衡が、薬効度やシグナル選択性といった、創薬上重要な特徴を規定することを明らかにしました。

今後は、NMR法を利用して、様々な創薬標的タンパク質における、活性と直結する動的構造平衡をさらに解明していくとともに、非典型ペプチドなどの中分子の膜透過機構や標的タンパク質認識機構を解明して、中分子医薬により機能的動的構造平衡を制御することを可能とする研究や、動的構造平衡と生化学的、細胞生物学的なリアルタイム観測データを組み合わせた数理モデルを、前述の交換モンテカルロ法を使って作成することで、構造と細胞機能を結びつけて生命現象を定量的に説明する、という新たなアプローチで、生命現象の理解および創薬を加速する研究を展開していく所存です。

本研究科にお世話になるのは私にとって初めての経験になりますが、吉田卓也先生、河原一樹先生をはじめとした、本当に素晴らしい方々と一緒に活動できることを、心より嬉しく思います。薬学の多岐にわたる分野の最先端の研究が研究科内で活発に進められているため、共同研究も今後積極的に進めていきたいと思っています。本研究科の全員六年制という点も初体験のことですが、薬理学の根幹を形成する物理系薬学を、多数の薬学生がその重要性を理解した上で習得することで、その後生涯にわたって体系的に学習を積み重ね、質の高い創薬研究者や研究型高度薬剤師として国際的に活躍できるように、教育を進めていきたいと思っています。また、本研究科の建物には薬用植物園が隣接していて、休憩の際、広大な万博記念公園の空気を感じながら、季節の花や果実を鑑賞できるのが有難く思います。植物園入口近くのヒロハノキハダの木を見ると、学生実習でキハダ（オウバク）から苦味健胃薬成分のベルベリンを抽出したことを思い出します。

研究科・薬学・科学の発展のために、研究、および教育や学部運営に一層尽力していきますので、今後何卒よろしくお願いいたします。



## 広告協賛のお願い

「大阪大学薬友会だより 第26号」【発行2023年 8月 31日(年1回8月に発行)】から、広告掲載(財政基盤整備の一環)を予定しています。より良い薬友会のために是非とも皆様のご協力を賜りますようお願いいたします。広告掲載は下記の要領でお願いします。

### 記

#### ●発行部数

6,000部

#### ●広告サイズと掲載協力金

- ・A4判 1 ページ (250×172) 80,000円
- ・A4判1/2ページ (122×172) 40,000円
- ・名刺サイズ (46.8×84) 8,000円

#### ●広告原稿

原則頂いた原稿をそのまま掲載いたしますが、修正・変更等は可能です。詳細は下記までお問合せ下さい。

#### ●お申込み方法

メール又はFAXで「広告協賛」とお書き頂いて、1) 広告主の社名(氏名)、2) 住所、3) 電話(FAX)、4) メールアドレスを記載してお送り下さい。お申込み頂いた方には、後日、広告掲載要領を送付させていただきます。

#### ●お申込み締切日

2024年11月30日

#### ●お申込み・お問合せ先

〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172  
(株)サルト内 大阪大学 薬友会係  
FAX 079-284-0904  
E-mail hyyk-info@salat.ac.jp



## 2023年10月25日 12期同窓会開催

10月25日京都にて12期同窓会を開催しました。

当初は令和2年の春に開催予定でしたが、コロナ騒ぎで右往左往すること3年余り、その間、全員が傘寿の齢を超えてしまいました。18名が元気にホテルグランヴィア京都に集まりました。顧みれば、1964年の東京オリンピックの年に卒業し、今の若い世代の境遇に較べ、活気にあふれて行く先に明るい希望が持たれた半世紀前の古き良き時代に青春時代を過ごせた幸運に想いを馳せて旧交を温めました。

この先80代の後半を迎え、何時まで同窓会を開き続けるか話題に上りましたが、一期一会の同志の集まりを大切に次回も開催することになりました。  
(松本佐市 記)



## 2023年10月29日 19期同窓会開催

今回の同窓会は、卒業後50年を記念しての同窓会として4年前に企画されましたが、コロナ禍で延期が重なり、ようやく2023年10月29日に新阪急ホテルで開催されました。当日の参加者は23名で、関東、四国、中国地方からのみならずオーストラリアからの参加もあり、久しぶりの再会を喜び合いました。

入学時の集合写真、講座毎のスナップ写真などをスライドで鑑賞し、しばし大学時代に帰ってワイワイガヤガヤ。楽しい時間でした。近況報告では、コロナの話題は少なくなり、家族や自分の健康、定年後の第2の仕事、社会活動、終活の準備、趣味の料理など多岐にわたり、皆さんの話の話題は尽きませんでした。欠席した仲間の近況も紹介されました。人生半世紀の同窓会、一区切りの同窓会でした。

この間仲間で亡くなられた方は9名、参加者も年々少なくなっていますが、会えば学生時代の活気が戻ってきます。2年後に元気に再会できることを約束して散会しました。  
(幹事：羽阪、津田、田中、中村)



## 2023年 5月25日 16期17期合同 東京地区同窓会開催

5月25日、神保町、重厚な雰囲気の学士会館（国の有形文化財に登録）にて、恒例の16・17期同窓会を行いました。大阪地区に比べて人数は劣るものの、その分密度の高い交流ができたかと思います。

子供、孫、病気の話はすでに過去、今は専ら終活の話題で盛り上がります。一人が、「お金は使いきるべき」と言えば、もう一人が「使いすぎてなくなったらどうするんだ」と言います。喧々譁々。大阪の同窓会では、まだ手を付けていない方もいらしたようですが、お早目にどうぞ。（吉田和子）



## 2024年 4月20日 20期同窓会開催

2024年4月20日に同窓会（第7回）を大阪大学中之島センターのサロン・アゴラで開催しました。卒業後52年が過ぎ、2019年の前回同窓会を大阪大学会館（旧教養部イ号館）アセンブリーホールで行ったことに続いて、今度は私たちの入学式が行われた松下講堂や旧理学部など大学発祥の地である中之島を訪ねました。中之島地区の変貌ぶりは時の流れを十分に感じさせるものでしたが、センターが中之島地区の学術・文化・アートの発信拠点になっていることを誇らしく感じました。私たちの同窓会は、3年ごとに開催する予定で行われてきましたが、予定した2022年はコロナ禍の規制のため開催できませんでした。そして、2年遅れ、5年ぶりの同窓会になりました。

同窓会には30名が参加し、大阪近郊をはじめ東京、千葉、新潟、香川、そして遠くはアメリカからも集まっていただきました。幹事の司会進行で、まずこの5年間に逝去された3名の方を含めて懐かしき7名の同窓に黙祷を捧げた後、歓談と料理を楽しむ時間が始まりました。その中で、薬友会理事である同窓生の米田真理子さんから薬学部の現在の様子がプロジェクターを使って語られ、大学の源流とされる適塾の紹介もありました。会場の雰囲気は大変素晴らしく、料理の美味しさと落ち着いた対応の中、参加者全員が近況報告をしてお互いが今取り

組んでいる活動なども紹介し合い、和気あいあいの時間があっという間に過ぎていきました。

歓談の最後に、幹事から「3年後の同窓会の開催」について提案があり、皆さんの賛同が得られましたので、次回の幹事を玉置さん、矢追さん、録澤さん、松本さん、高松さん、澤田さんをお願いしました。閉会後も参加者はセンター2階の喫茶に移動して、同窓会の余韻を楽しみました。3年後もまた多くの皆さんと元気にお会いできることを楽しみにしています。

（武藤徳男）





# 近況報告

卒業生の方々の近況をご紹介します。



## 宇都口 直 樹

38期（薬剤学分野）（昭和薬科大学）

私は眞弓忠範教授（現名誉教授）のご指導を受け、博士課程修了後、1995年松本光雄教授（現昭和薬科大学名誉教授・阪大薬2期生）の主宰されていた昭和薬科大学薬剤学研究室に助手として赴任しました。その後、アメリカ留学、帝京大学薬学部（准教授、教授）を経て2016年に昭和薬科大学薬剤学研究室に再度赴任しまし

た。2017年に学長補佐、2018年から副学長となり、2024年4月より学長を拝命いたしました。

薬剤学に関する基礎研究から離れ、本学の理念である「薬を通して人類に貢献」を実現すべく、社会で活躍できる薬剤師の輩出と大学運営に注力いたします。



## 澤 本 浩 昭

48期（薬品製造化学分野）（田辺三菱製薬）

2005年に卒業後田辺三菱製薬で一貫して創薬研究に従事し、創薬プロジェクト推進や核酸医薬の基盤技術構築を行ってきました。今年から海外学術雑誌の編集者を兼務し多忙な日々を送っております。核酸医薬のような新規モデルは未成熟で課題が山積しております。それらを解決すべく、世

界を変えるような技術構築を夢見てエキサイティングな研究を進めております。さて、3月28日に横浜中華街にて「製造ミニ同窓会」を開催し、現職員、学生、OBで親睦を深めました。「製造」という共通項を持つ世代を超えた繋がりは大変貴重です。関東では定期的に製造OBが集う会を開催しておりますのでご興味のある方はお声がけ下さい。今後ともご指導ご鞭撻の程何卒宜しくお願い致します。



## 常世田 好 司

院48期（細胞生理学分野）（鳥取大学医学部生命科学科免疫学分野）

私は山元弘先生や辻川和丈先生のご指導のもと、2002年に博士後期課程を修了した後、京都、ドイツ、千葉、再びドイツと飛び回り、現在は鳥取大学におります。米子にある鳥取大学医学部生命科学科は4年制で、製薬会社やアカデミアで働く、医学や生命科学の研究者を育成する学科です。ラボには4回生の学生が毎年

4～5名配属されるので、私が在籍した当時的大阪大学薬学部と似た状況になっており、お世話になった先生方のご苦勞を痛感する日々です。研究は、自己免疫疾患の解明とワクチンの開発を目指しており、基礎研究からの画期的な発見を目論んでおります。辻川先生には研究でご協力して頂く機会もあり、大阪大学薬学部に関わる機会も増えています。



## 稲 角 嘉 彦

51期（細胞生物学分野）（厚生労働省医薬局総務課）

私は2005年に細胞生物学分野で山口明人先生のご指導の下、博士前期課程を修了し、厚生労働省へ入省しました。入省後は薬事や医療保険（薬価）に関する業務を中心に担当し、2023年4月からは化学物質の安全対策に初めて取り組むことになりました。法の運用だけではなく、OECD等の国際機関における議論を踏まえて

我が国での制度を見直すべきかどうかといったことも考えていました。そして、ある程度慣れてきた2024年4月に内示と異動があり、人事や採用を担当することになりました。これまでは大学・大学院で学んだ科学的なエビデンスとその限界を意識しながら業務を進めていましたが、今はそれと違う部分が多いので、日々新鮮に思っています。



## 森 下 裕 貴

58期（毒性学分野）（独立行政法人医薬品医療機器総合機構）

私は、堤康栄名誉教授にご指導いただき、2015年に博士後期課程を修了しました。その後、国立医薬品食品衛生研究所の博士研究員を経て、2020年10月に（独）医薬品医療機器総合機構に入構しました。医療機器の承認審査等業務に3年半従事した後、本年4月からは、医療機器の薬事申請に関連する基準、ガイドランス等

の作成業務に携わっています。現在の業務は、多数の品目の評価や審査に影響する重要なものだと感じています。適切なルール作りのためには、最新の科学技術を把握しておくことに加え、産業振興とのバランスや国際整合の観点を考慮することが必要であることから、様々な視点に立って物事を考えられるよう、日々研鑽し業務に励んでいます。



## 松 本 浩 太 朗

61期（臨床薬効解析学分野）（独立行政法人 国立病院機構 大阪医療センター）

藤尾慈先生に御指導賜り、2019年に博士後期課程を修了しました。その後、特任助教として臨床薬効解析学分野で研究を続けていましたが、研究室在籍中に藤尾先生の大きな影響を受け、研究・臨床の両分野で活躍できる人材になりたいとの思いから、一念発起して名古屋大学で医学を学びました。この春から再び住み慣

れた大阪に戻り、現在は初期研修医として診療科ローテーションや当直業務を通して臨床について学ぶ充実した日々を送っています。慣れない医療の世界ですが、健康に留意しつつ、ぼちぼちやろうと思います。将来、医学・薬学の発展に少しでも貢献できるように、自分より10歳近く若い同期たちと共に切磋琢磨しながら、おじさんパワーで頑張ります。





## 飯塚 俊輔

院62期（分子生物学分野）（JCRファーマ株式会社）

私は2019年に水口裕之先生のご指導のもと博士号を取得し、その後はJCRファーマ株式会社にて遺伝子治療薬の研究開発に従事しています。大学院時代にはアデノウイルス（Ad）ベクターを研究テーマとしておりましたが、COVID-19パンデミックの際、奇しくも弊社はAdベクターワクチンの受託製造を行うこととなりました。

当時は大変な忙しさでしたがAdベクターが社会実装される最前線に関われたことは大変刺激になりました。現在はアカデミアとの共同研究を担当し、画期的な遺伝子治療薬の社会実装を目標に精力的に働いています。仕事では様々な壁にぶつかりますが、熱意あふれる同僚・先生方と協力しながら画期的な医薬を生み出すべく尽力してまいります。



## 吉川 祐介

院63期生（医薬合成化学分野）（大塚製薬株式会社）

私は2020年に有澤光弘先生のご指導の下、医薬合成化学分野において博士号を取得し、大塚製薬株式会社に入社しました。30年近く住んでいた大阪を離れ、自然豊かな徳島での生活を、家族3人で満喫しています。会社では、中枢神経系疾患を対象とした、低分子化合物の探索合成研究に取り組んでいます。薬の種を見つけ

るには、薬効・動態・毒性などの様々なデータを基に、最良の化合物をデザインする必要があります。教科書通りのやり方では上手くいかないことも多く、悪戦苦闘の毎日ですが、良い化合物を見つかった時は、この上ない喜びがありました。将来、私の見つけた薬が患者さんに届くのを夢見ながら、引き続き研究に精進していきます。



## 田中 敬介

64期（生物有機化学）（独立行政法人 医薬品医療機器総合機構）

私は小比賀聡先生の御指導の下、2021年3月に博士後期課程を修了し、現在は独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）の再生医療製品等審査部で審査専門員として、医薬品の審査に従事しております。大学院時代とは異なる分野の医薬品を、異なる視点から審査する

必要があり、日々自らの知識不足を実感しながらも、業務に精進しております。また、製薬業界では企業だけでなく、規制当局においても国際化が求められ、海外規制当局とのコミュニケーションも増えており、悪戦苦闘しております。薬事の面から日本の製薬業界に貢献できるように精進してまいります。



## 田中 駿

64期（天然物創薬学分野）（ニプロ株式会社）

私は荒井雅吉教授のご指導のもと2018年に博士前期課程を修了しました。その後は、ニプロファーマ株式会社に就職し、注射剤の品質管理業務に携わり、現在は転勤・転籍を経てニプロ株式会社の再生医療事業部にて再生医療等製品の品質管理業務に携わっております。

再生医療はまだこれから分野であり、分かっていないことも多い為、日々新たな発見と問題に直面しながら業務に取り組んでいます。再生医療では細胞を扱うことから、学生時代に培った細胞培養の知識や技能も助けとなっております。今後も再生医療等製品の安定供給・発展に向け、患者様のためにをモットーに精進してまいりたいと思います。



## 田沼 将人

65期（神経薬理学分野）（住友ファーマ株式会社）

私は神経薬理学分野で橋本均先生のご指導のもと、2023年の3月に博士課程を修了し、同年4月に住友ファーマ株式会社に入社し、中枢神経系（CNS）疾患の薬理研究に従事しております。入社1年目の昨年度は初期段階のテーマから臨床入りしているテーマまで、さらにアカデミアとの共同研究など、幅広く創薬研究に携

わる機会をいただき、神経薬理学分野で培ったCNS領域の知識や技術を活かしながら創薬研究者として成長してきました。CNS疾患の新薬創出（とくに新しい標的を狙うもの）は大変難しいものですが、この状況を打破して患者さんに薬を届けられるよう、2年目以降も心技体の充実に努めたい所存であります。



## 澁谷 銘人

67期（創薬ナノデザイン学）（塩野義製薬株式会社）

私は創薬ナノデザイン学分野・吉岡靖雄先生のご指導の下、2021年に博士前期課程を修了し塩野義製薬株式会社に入社いたしました。在学中はインフルエンザを題材としワクチンおよび免疫賦活剤であるアジュバントを中心に研究をしていました。学んだ知識を活かし、ワクチン研究に従事したいと考えワクチンのアクセシビリティがある企業に絞って就職活動をしておりましたが、塩野

義製薬様にご縁があり入社する運びとなりました。これまでに培った知識・技術を活かせる喜びを感じつつ日々業務に励んでおります。また昨年夏からは千葉大学にて粘膜免疫の大家である清野宏先生らと弊社の共同研究講座であるヒト粘膜学部門が開設され、初期メンバーとして日々粘膜ワクチン創製に向け研究に取り組んでいます。良いものを生み出し世の中に届けるべく、更に精進してまいります。



## 中谷 諒介

67期（高分子化学分野）（独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE））

私は2022年に博士前期課程を修了し、独立行政法人製品評価技術基盤機構（NITE）に入構しました。NITEは、製品技術の観点から人々の安全を守り、挑戦を支える国の機関であり、私は現在バイオテクノロジー分野の一員として、微生物に関する情報を提供するデータベース系の仕事に携わっています。

微生物とデータベースというどちらもこれまでの研究とは違う分野への挑戦となりましたが、学生時代に学んだ分析系及び生物系の知識を活かしつつ、微生物に関わる方々がどのようなサポートを求めているのか、それに応えるにはどのようなデータベースを構築すれば良いのかについて、周りの方々のサポートをいただきながら日々学んでいます。今後も微生物による社会の発展に貢献できるよう精進してまいります。



## 奥澤正樹・奥澤明伽（旧姓：戸田）

68期（臨床薬理学分野）（第一三共株式会社）

私達は、2022年に薬学部薬学科を卒業し、ともに第一三共株式会社へ入社しました。臨床薬理及びデータマネジメントの業務に従事し、臨床試験を推進しております。臨床薬理学分野にて研究を進める中で学んだ解析法やデータの取扱いは、現在業務を

進める上での基礎となっています。卒業と同年の2022年3月に入籍し、東京での2人暮らしを開始しました。リモートワークと出社を効果的に組み合わせながら、グローバル会議で不規則な業務時間の中、ワークライフバランスのとれた生活を送っております。これからも新薬創出のため、公私ともに努力を続けていきたいと思いを。



## 嶋田裕介

68期（生体構造機能分析学分野）（塩野義製薬株式会社）

2022年に薬学研究科を卒業し、現在は塩野義製薬株式会社で主に治験薬等の品質管理業務を行っております。

研究と申請のはざまのような部署に所属しており、実験や書類業務に日々追われながらも充実した日々を過ごしております。

幸運(?)なことに入社してすぐにコロナ治療薬の開発、申請に携わることができました。

スピードと品質を同時に追求する苦難（特にこの品目は）を味わうことができたことは良い財産となりました。

研究室で学んだ実験の手技、化学の知識や発表経験が生きる場面も多く、やりがいを感じる日々です。

卒業後も研究室の諸氏にお会いできる機会もあり、ありがたい限りです。

以後も研究室で培った能力を活かし、業務に励んで参ります。



## 大山裕貴

69期（遺伝子機能解析学分野）（ヘルムホルツセンター・ミュンヘン）

微生物病研究所、伊川正人先生・宮田治彦先生のご指導のもと、2024年3月に博士後期課程を修了しました。伊川研で生殖研究に従事する中で受精卵の高次ゲノム構造に興味を持ちました。そのため、今年度からは初期胚のゲノム構造とその制御機構の解明をメインテーマとする、ドイツ・ヘルムホルツセンター・ミュンヘン

のTorres-Padilla Labでポスドクとして新しいスタートを切ります。これから研究する「高次ゲノム構造」は受精卵の発生過程で大きく変化することが知られています。この構造変化は全能性に関わるとされていますが、その制御機構の多くが謎に包まれています。伊川研での経験を糧に、新しい技術・知識をどんどん取り入れながら、高次ゲノム構造形成メカニズムの解明を楽しんでいきたいと思いを。



## 中村彩紗

69期（再生適応学分野）（ロート製薬株式会社）

私は再生適応学分野の深田宗一郎先生のご指導の下、2023年に博士前期課程を修了しました。現在はロート製薬株式会社でアイケア製品の薬理評価や評価のためのモデル作成に従事しています。

基礎研究をしながら商品開発や営業活動にも関われる部署で毎日学ぶことは沢山ありますが、部署に関係なくディスカッション

する楽しさや商品に結びつく喜びを感じながら働いています。その中で研究室で学んだ「わからなくても自分なりに考えてみる、行動してみる」ということが生きています。まだまだ社会人として未熟ですが、今のワクワクする心を忘れずお客様の健康に貢献できるように精進して参りたいと思いを。



## 松井裕大

69期（生体応答制御学分野）（大分県南部保健所）

私は齊藤達哉先生、武村直紀先生のご指導の下、2023年に薬学部薬学科を卒業しました。現在は分県南部保健所で食品衛生に関わる仕事に携わっております。主な仕事内容としては、食の安全・安心を守るために、食品製造業者・飲食店の監視指導、市販流通食品の検査、食品衛生の講習等を行っています。大規模工

場の立入は指導に責任を感じる反面、様々な最新機器を見ることができ、工場見学のように楽しいです。また、県民との距離が近く、成果が目に見える形で表れるため、とてもやりがいを感じています。今後も公務員薬剤師として、病院や衛生研究所の配属もあるため、薬剤師の職能を最大限に活用して、様々な経験を積み、地域に貢献していききたいと思いを。



## 山根章寛

70期（病院薬剤学分野）（千葉大学医学部附属病院 薬剤部）

私は病院薬剤学分野での研究ののち、2023年度に薬学科を卒業しました。卒業後は、千葉大学医学部附属病院薬剤部のレジデント（薬剤師として働きながら種々の研修を受けられる制度）となり、大学病院での医療の一端を担わせていただいています。薬剤部内の部署を回りながら研修を受け、病院の内規に慣れながら医

薬品の知識を高めていく段階にあります。難しいことも多々ありますが、その分成長を実感でき、充実した日々を送っています。2年間のレジデント期間は私にとってはまだ始まったばかりです。できること、やらなければならないことがこれからどんどん増えていきますが、それを楽しみながら、頼れる薬剤師になれるよう精進してまいります。





# 薬友会賞受賞の喜び

令和5年度 大阪大学沢井記念薬友会賞受賞者

## 研究部門賞

### 澤 間 善 成

薬品製造化学分野・准教授



この度、「有機分子への重水素導入法の開発と応用」という研究課題にて、令和5年度（2023年度）大阪大学沢井記念薬友会（研究部門賞）を拝受いたしました。この場をお借りし、春田純一会長をはじめ薬友会の皆様に厚く御礼申し上げます。

重水素（ $^2\text{H}$ , D）は、水素（H）の放射性の無い安定同位体であります。有機分子に重水素を組み込んだ重水素化体は、古くより有機反応や薬物動態の解析に利用されてきました。近年、重医薬品や生細胞イメージングの材料として重水素化体の活用が注目されています。しかし、重水素化体の合成には高価な重水素化源（試薬）を用いた多工程が必要であります。このような問題点を解決すべく、学術変革領域研究（B）として「重水素学」を発足し、多分野融合型の研究を実施してきました。我々の研究室では、最も安価な重水素源である重水（ $\text{D}_2\text{O}$ ）を用いて、有機分子のC-H結合をC-D結合に直接変換するH/D交換反応を多数開発しました。すなわち、白金族系固体触媒や有機触媒、塩基、光触媒などを活性化剤として使い分けることで、（ヘテロ）芳香族化合物・糖・飽和脂肪酸・炭化水素・硫黄含有生体関連物質・ポリエチレングリコールなどに位置選択的もしくは分子全体に重水素を効率良く導入することに成功しました。また、得られた重水素化体を用いて重医薬品開発や生細胞イメージング等への応用にも展開し、本手法の有用性を実証することにも成功しました。本受賞を励みに、今後も「有機合成化学」と「重水素学」を基盤とした薬学研究の発展に邁進していく所存です。

本研究は、本研究科薬品製造化学分野・赤井周司先生の御指導や共同研究先の先生方の御支援の下で実施されたものです。また、数多くの学生の御尽力のもと、本成果を挙げることができました。最後になりましたが、関係者の方々に心より感謝申し上げます。

## 奨 励 賞

### 大 山 裕 貴

遺伝子機能解析学分野・博士後期課程3年

2024年度以降の所属：ヘルムホルツセンター・ミュンヘン

この度、令和5年度博士課程論文発表会におきまして、「ゲノム編集マウスのスクリーニングより得た精子運動不全マウスの解析」という研究課題で、大阪大学沢井記念薬友会賞奨励賞を拝受いたしました。このような大変名誉ある素晴らしい賞を頂くことができ、光栄に存じます。

日本を含む先進諸国では、不妊症が大きな社会問題となっており、男性不妊の原因遺伝子の特定とその機能の理解が求められています。精子鞭毛の正常な運動は卵子への到達と侵入に関わります。哺乳類の精子鞭毛は軸糸と外側緻密繊維（ODF）、線維鞘（FS）、といった様々な軸糸周辺構造で構成されており、精子鞭毛の構造異常は精子の運動性低下を引き起こし、不妊に繋がります。しかし、精子形成過程において鞭毛構造が形成されるメカニズムについては不明点が多いです。このような背景から、博士課程を通じて、生殖能力に必須な遺伝子の特定と精子鞭毛形成メカニズムの解明を目指しました。

本研究では、CRISPR/Cas9システムを用いたKOマウスの作製と交配試験による表現型スクリーニングを行いました。博士課程を通じて14系統の遺伝子欠損マウスを解析し、そのうち、TULP2がODFの形成に、LCA5LがFSの形成に関与することを明らかにしました。これら2遺伝子のKOマウスはいずれも精子の運動性と生殖能力の低下を示しました。精子の軸糸周辺構造は体内受精を行う動物種から高度に進化しています。今後、進化的な観点から遺伝子の機能を解析することで、生物種を超えた精子形成の理解が進むと考えられます。このような基礎的な知見に加え、本研究における必須遺伝子の同定・解析は男性不妊の原因究明や避妊薬の開発にも繋がる成果であると考えております。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたり多大なご指導ご鞭撻を賜りました伊川正人教授、宮田治彦准教授、遺伝子機能解析分野の皆さま、ならびに、本研究にご協力頂きました多くの共同研究者の皆様に心より御礼申し上げます。



## 奨励賞

### 竹村 美穂

医療薬学分野・博士課程4年生  
2024年度以降の所属：京都大学医学部附属病院薬剤部

この度、令和5年度博士課程論文発表会におきまして、「難治性がん疼痛に対するオピオイド選択基準ならびにその安全な使用法の提案」という演題で、大阪大学沢井記念薬友会賞奨励賞を拝受いたしました。このような素晴らしい賞を頂くことができ、大変光栄に存じます。この場をお借りし、春田純一会長をはじめ薬友会の皆様に厚く御礼申し上げます。

疼痛は、がん患者の75～90%が経験すると言われており、日常生活に大きな影響を与えることから、そのコントロールはがん患者の苦痛緩和の中心的な役割を担います。がん疼痛治療ガイドラインでは、オキシコドンやフェンタニルなどのオピオイドの使用が推奨されていますが、神経障害性疼痛や骨転移痛、オピオイドの標的受容体である $\mu$ オピオイド受容体の遺伝子多型・OPRM1 A118G多型を有する患者では、 $\mu$ オピオイド受容体の発現量や活性が低下するため、 $\mu$ オピオイド受容体刺激作用薬を使用しても鎮痛効果がほとんど得られないことが報告されています。そこで本博士論文では、オピオイドの中でもノルアドレナリン再取り込み阻害作用を併せ持つタペンタドールと、NMDA受容体拮抗作用を併せ持つメサドンに着目し、これらの難治性がん疼痛に対する有効性をオピオイド間で比較検証しました。その結果、神経障害性疼痛や、しびれを伴った骨転移痛、OPRM1 A118G多型を有する患者において、タペンタドールとメサドンが他のオピオイドに比べて優れた鎮痛効果を示す可能性を見出しました。また、メサドン開始後に日中の過度な眠気が発生し、身体活動度が低下した症例を複数認めたことから、過度な眠気を誘発せず先行オピオイドからメサドンへ変更するための換算比を明らかにしました。これらの研究成果は、難治性がん疼痛に対する新規治療法の確立に貢献すると期待されます。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたりご指導ご鞭撻を賜りました池田賢二教授、本研究にご協力頂きました共同研究者の先生方、ならびに医療薬学分野の皆様にご心より感謝申し上げます。

## 若手奨励賞

### 吉田 春陽

生体構造機能分析学分野  
2024年度以降の所属：シスメックス株式会社

この度、令和5年度長期課題研究発表会におきまして、「死因究明の実務で生じた課題と既存薬の新規作用機序の解明」という演題で、薬友会賞若手奨励賞を拝受いたしました。

死因究明は、事件・事故の有無を鑑定し、屍者や遺族の人権保護、地域の治安維持に繋がるものです。また、正確な死因統計の取得や、感染症や致死性の遺伝子の検出により、公衆衛生向上にも寄与する重要な行為です。死因究明の中でも、法医学で実施される司法解剖では、事件・事故の見逃しを防ぐために薬毒物検査が必要不可欠です。しかし、薬毒物検査では、新しい分析法の開発や、薬毒物中毒死の鑑別マーカーの確立、既存薬の隠れた薬効や毒性の解明などが、重要な課題として残されています。

私は、法医解剖事例の薬毒物検査の実務に従事する中で、これらの課題に直面したため、研究に取り組みました。その中で、メタノール中毒患者の血中ギ酸定量についてと、抗精神病薬オランザピンの未知の機能探索と作用機序解明を目指した研究について報告しました。

最後になりましたが、本研究の遂行にあたり、ご指導、ご鞭撻を賜りました井上豪教授、原田和生准教授をはじめとする生体構造機能分析学分野の皆様、本研究に協力していただいた全ての方に心より感謝申し上げます。



## 若手奨励賞

### 喜 多 良 介

生物有機化学分野・博士前期課程2年  
2024年度以降の所属：協和キリン株式会社

この度、令和5年度修士論文発表会におきまして、「Ugi反応を基盤としたリガンドコンジュゲートASOライブラリーの構築及びASOに適した新規DDSリガンドの探索」という演題で薬友会賞若手奨励賞を拝受いたしました。大変光栄に思うと同時に、身の引き締まる思いです。

アンチセンス核酸（ASO）は、治療標的とするRNAが存在する細胞核・細胞質までの送達に難しいという課題があります。本研究では、これら標的箇所までのASOの送達効率を向上させるため、ASOに搭載する新規DDSリガンドの探索に取り組みました。まず、多様な構造を有するリガンドをUgi反応で合成し、それらをASOに結合させ、130種からなるリガンドコンジュゲートASOのライブラリーを構築しました。続いて、11種のヒト癌細胞株を用い、ライブラリー化合物をスクリーニングした結果、9種のコンジュゲート体が未修飾のASOと比較し、活性の向上を示しました。更に、種々のin vitro・in vivo試験から、これらに搭載したDDSリガンドはASOの薬物動態を改善する可能性があり、ASOの更なる実用化へ貢献できることを示しました。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたりご指導、ご鞭撻を賜りました小比賀聡先生、大澤昂志先生をはじめ、生物有機化学分野の皆様方に深く御礼申し上げます。

### TAUFIQ TAHIA (タウフィク タヒア)

生物有機化学分野・博士前期課程2年  
2024年度以降の所属：三菱ガス化学株式会社

令和5年度修士論文発表会において、「Synthesis and Biophysical Evaluation of Long-acting Antisense Oligonucleotide Based on Divalent PEG-Antisense Conjugate Technology and Its Application in RNA Circularization」という演題で大阪大学沢井記念薬友会賞若手奨励賞を受賞いたしました。この場を借りて、薬友会の皆様に深く御礼申し上げます。

核酸医薬の主要な課題は排泄速度の速さと血中半減期の短さです。私は持続性を持つ二価PEG化コンジュゲートASO (di-ASO-PEG) を合成し、その機能評価を行いました。6種類のdi-ASO-PEGを成功裏に合成し、RP-HPLCでの精製及び質量分析を経て、その有効性を確認しました。合成したdi-ASO-PEGはin vivo評価において、PEG化していないASOと比較して長時間にわたり活性を維持することが明らかとなりました。さらに、di-ASO-PEGの応用として、標的RNAの環状化を行い、その安定性と翻訳効率の向上を実現しました。この戦略が今後のワクチンや様々な治療に貢献することを期待しています。

最後になりますが、本研究の遂行にあたり、ご指導とご鞭撻を賜りました小比賀聡先生、笠原勇矢先生をはじめとする生物有機化学分野の皆様、共同研究者の皆様、そして学生生活を支えていただいた家族・友人に心から感謝申し上げます。

### 前 光 結

薬品製造化学分野・博士前期課程2年  
2024年度以降の所属：博士後期課程1年

この度、令和5年度修士論文発表会におきまして「光触媒を用いた硫黄隣接位への選択的重水素導入法の開発」という演題で薬友会賞若手奨励賞を拝受致しました。名誉ある賞をいただくことができ、大変光栄に感じています。

近年、重水素を組み込んだ重医薬品や重水素をタグとして用いる分子イメージングなどが注目されています。これまで有機分子に重水素を導入する手法として、白金族触媒を用いた手法が主に開発されてきました。しかし、基質が硫黄原子をもつ場合には、白金族が被毒するため、適用は困難です。本研究では、最も安価な重水素源である重水と安価な有機光触媒アントラキノンまたはチオキサントンを用いて、アルキルスルフィドや含硫黄生体関連物質（メチオニンや

## 若手奨励賞

ジオチンなど)の硫黄原子隣接位を選択的に重水素化することに初めて成功しました。本法により合成した重水素化体は、重医薬品原料やラマンタグ材料として利用できます。

最後になりますが、本研究を遂行するにあたりご指導・ご支援を賜りました赤井周司先生、澤間善成先生をはじめとする薬品製造化学分野の皆様、ならびに日々の研究生活を支えてくれた家族、友人に心より感謝申し上げます。

## 文 志 勲

薬品製造化学分野・博士前期課程2年  
2024年度以降の所属：博士後期課程1年

この度、令和5年度修士論文発表会におきまして、「Pickeringエマルジョンを活用するアルコールの動的速度論的光学分割法の開発」という演題で薬友会賞若手奨励賞を拝受いたしました。

リパーゼを用いた動的速度論的光学分割法(DKR)は、速度論的光学分割とラセミ化とを同一系内で行うことにより、ラセミ体原料を定量的に光学活性体へと変換できる優れた手法のひとつです。一方で、触媒の共存性や副生成物といった問題がしばしば問題となっており、これら諸問題を解決するDKRの開発が求められていました。

本研究では、ナノ粒子を界面活性剤とするPickeringエマルジョンを用いた反応場の分離により、本来であれば共存できないリパーゼと酸水溶液とを同一系内で用いるDKRを達成しました。2つの触媒が接触しないような反応設計により触媒共存性の問題が、酸水溶液中でのラセミ化によって副生成物の問題が解決されました。従来課題を克服した高効率なDKR法であり、医薬品製造プロセスへの応用が期待されます。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたりご指導、ご鞭撻を賜りました赤井周司先生、鹿又喬平先生をはじめとする薬品製造化学分野の諸氏、ならびに家族・友人に心より感謝申し上げます。

## 大阪大学中之島センターリニューアルオープン

2019年まで卒後研修会の開催にも利用されておりました大阪大学中之島センターは、このたび大阪大学創立90周年・大阪外国語大学100周年記念事業の一環として改修が行われ、2023年4月にリニューアルオープンしました。同窓会や講演会などにぜひご利用ください。

ホームページ : <https://www.onc.osaka-u.ac.jp/>





# 受賞者紹介

(薬品製造化学分野)

## 鹿 又 喬 平

大阪大学大学院薬学研究科 助教

学会名 有機合成化学協会  
課題名 Pickeringエマルションによる反応場の分離が可能にする多成分触媒反応の新設計戦略  
受賞の名称 日産化学研究企画賞  
受賞日 令和5年2月15日

学会名 第23回生体触媒シンポジウム  
課題名 リパーゼと硫酸水溶液を同一系内で用いるアルコール類の動的速度論的光学分割  
受賞の名称 企業注目賞  
受賞日 令和5年9月29日

## 池 田 黎

院70期 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第73回日本薬学会関西支部総会・大会  
課題名 不均一系オキソバナジウム触媒によるp-メトキシベンジルエーテルの脱保護とフロー反応への応用  
受賞の名称 優秀口頭発表賞  
受賞日 令和5年10月23日

## 阪 一 穂

院70期 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第13回CSJ化学フェスタ2023  
課題名 重水を用いた重アルキル基導入試薬の開発と速度論的同位体効果の評価  
受賞の名称 優秀ポスター発表賞  
受賞日 令和5年12月1日

(生物有機化学分野)

## 大 澤 昂 志

58期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第73回日本薬学会関西支部総会・大会  
課題名 DNAコード化ライブラリーへの応用を志向したクマリナーオリゴ核酸コンジュゲートの合成  
受賞の名称 2023年度日本薬学会関西支部奨励賞  
受賞日 令和6年1月26日

## 尾 田 ちひろ

71期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会第144年会  
課題名 Gapmer型アンチセンス核酸の修飾パターンがオフターゲット毒性に与える影響  
受賞の名称 学生優秀発表賞（口頭発表の部）  
受賞日 令和6年4月23日

## 丸 山 陸 斗

院71期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会第144年会  
課題名 構造自由度の制限による8-17DNAzymeのRNA切断活性への影響  
受賞の名称 学生優秀発表賞（口頭発表の部）  
受賞日 令和6年4月23日

## 吉 村 駿 佑

72期生 大阪大学薬学部

学会名 日本薬学会第144年会  
課題名 小細胞肺癌におけるSRRM4標的アンチセンス核酸の効果とPD-L1発現に関する研究  
受賞の名称 学生優秀発表賞（口頭発表の部）  
受賞日 令和6年4月23日

## 吉 村 友 希

72期生 大阪大学薬学部

学会名 日本薬学会第144年会  
課題名 1'-C,3'-O-プロピレン架橋型アルトリートル核酸の新規合成法の開発  
受賞の名称 学生優秀発表賞（ポスター発表の部）  
受賞日 令和6年4月23日

(分子生物学分野)

## 石 神 育 歩

68期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第30回肝細胞研究会  
課題名 Reovirusによる肝星細胞の脱活性化を介した線維化抑制・機能回復に関する検討  
受賞の名称 最優秀演題賞  
受賞日 令和5年8月25日

学会名 日本薬学会第144年会  
課題名 腫瘍溶解性ウイルス製剤（抗がん剤）であるレオウイルスによる腎線維化治療に関する検討  
受賞の名称 学生優秀発表賞（口頭発表）  
受賞日 令和6年4月23日

## 清 水 かほり

院58期生 大阪大谷大学薬学部・講師

学会名 日本遺伝子細胞治療学会  
課題名 改良型アデノウイルスベクターを用いた肝臓内の糖および脂質代謝の制御による糖尿病の新規遺伝子治療法の開発  
受賞の名称 アンジェス若手研究奨励賞2023  
受賞日 令和5年9月12日

## 浦 谷 悠 生

72期生 大阪大学薬学部

学会名 第73回日本薬学会関西支部総会・大会  
課題名 ヒトiPS細胞由来腸管オルガノイド単層膜を用いた薬剤性消化管障害の予測  
受賞の名称 優秀口頭発表賞  
受賞日 令和5年10月14日

学会名 日本薬学会第144年会  
課題名 薬剤性消化管障害の予測におけるヒトiPS細胞由来腸管オルガノイド単層膜の有用性  
受賞の名称 学生優秀発表賞（口頭発表）  
受賞日 令和6年4月23日

## 永 井 和 奏

72期生 大阪大学薬学部

学会名 第73回日本薬学会関西支部総会・大会  
課題名 ヒトiPS細胞由来肝オルガノイドに凍結保存が与える影響  
受賞の名称 優秀口頭発表賞  
受賞日 令和5年10月14日

## 種 昂 なお実

70期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第10回日本細胞外小胞学会学術集会  
課題名 腫瘍溶解性ウイルスであるレオウイルスは細胞外小胞と相互作用した状態で感染細胞より放出される  
受賞の名称 奨励賞  
受賞日 令和5年10月24日

## 中 川 可奈子

72期生 大阪大学薬学部

学会名 日本薬学会第144年会  
課題名 ウイルスゲノムを模倣した核酸医薬による肝星細胞での線維化抑制効果の検討  
受賞の名称 学生優秀発表賞（口頭発表）  
受賞日 令和6年4月23日

## 堀 翔

74期生 大阪大学薬学部

学会名 日本薬学会第144年会  
課題名 ヒト肝ミクロソームによる新規lidocaine代謝物の発見と同一代謝物を産生する微生物種の同定  
受賞の名称 学生優秀発表賞（ポスター発表）  
受賞日 令和6年4月23日

(毒性学分野)

## 北 本 夏 子

71期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 10th International Congress of ASIATOX  
課題名 Investigation of the mechanisms of benzo[a]pyrene-induced cellular senescence in breast cancer  
受賞の名称 JSOT ASIATOX-X Travel Award  
受賞日 令和5年5月24日

## 真 鍋 颯 太

71期生 大阪大学薬学部

学会名 10th International Congress of ASIATOX  
課題名 The mechanisms of autophagy-dependent cell toxicity caused by degraded microplastics  
受賞の名称 JSOT ASIATOX-X Travel Award  
受賞日 令和5年5月24日

学会名 第50回日本毒性学会学術年会  
課題名 紫外光により劣化したマイクロプラスチックはオートファジー依存的な細胞死を誘導する  
受賞の名称 学生ポスター発表賞  
受賞日 令和5年6月20日

## 山 本 怜 奈

71期生 大阪大学薬学部

学会名 日本食品化学学会第29回総会・学術大会  
課題名 非晶質ナノシリカ曝露による胎盤炎症応答の解析  
受賞の名称 若手優秀発表賞  
受賞日 令和5年6月9日

## 小 林 純 大

70期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第73回日本薬学会関西支部大会  
課題名 非晶質ナノシリカ粒子の胎盤透過性及び胎盤細胞取り込み評価  
受賞の名称 優秀口頭発表賞  
受賞日 令和5年10月23日

## 西 村 哲 秀

70期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第73回日本薬学会関西支部大会  
課題名 ストレス応答に着目した薬剤抵抗性非小細胞肺癌細胞の生存機構解明  
受賞の名称 優秀口頭発表賞  
受賞日 令和5年10月23日

## 奥 野 和 香 子

72期生 大阪大学薬学部

学会名 第73回日本薬学会関西支部大会  
課題名 Forskolin誘導性のBeWo細胞合体化過程に対するバルプロ酸の影響評価  
受賞の名称 優秀ポスター賞  
受賞日 令和5年10月23日

## 東 阪 和 馬

57期生 大阪大学高等共創研究院 (兼任部局 薬学研究科)

学会名 American College of Toxicology 44th Annual Meeting  
課題名 Cell-mediated immunity exacerbates amorphous silica nanoparticles-induced hepatic damage  
受賞の名称 AstraZeneca Best Poster Award for Innovation  
受賞日 令和5年11月13日

課題名 微粒子曝露が脆弱世代におよぼす影響の解明と制御に関する研究  
受賞の名称 2023年度大阪大学賞  
受賞日 令和5年11月22日

## 佐 伯 悠 真

73期生 大阪大学薬学部

学会名 日本薬学会第144年会  
課題名 銀ナノ粒子の雄親曝露が妊娠転帰に及ぼす影響の評価  
受賞の名称 学生優秀発表賞  
受賞日 令和6年4月23日

(神経薬理学分野)

## 植 野 寛 貴

68期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第66回日本神経化学学会大会  
課題名 深層学習を用いた発達障害モデルマウスの社会性行動障害に関わる機能的ネットワークの同定  
受賞の名称 若手道場優秀発表賞  
受賞日 令和5年7月7日

## 大 久 保 仁

70期生 大阪大学薬学部

学会名 生体機能と創薬シンポジウム2023  
課題名 ストレス誘発不安応答を制御する前障神経細胞の遺伝子発現プロファイル  
受賞の名称 優秀ポスター発表賞  
受賞日 令和5年8月25日

## 村 田 拳 一 朗

72期生 大阪大学薬学部

学会名 第50回日本脳科学学会  
課題名 胎生期PGD2-DP1 シグナル活性化はマウスの自閉症様の精神行動異常を引き起こす  
受賞の名称 奨励賞  
受賞日 令和5年12月3日

## 平 戸 祐 充

院67期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第97回日本薬理学会年会  
課題名 非定型抗精神病薬クロザピンの作用機序に関与する神経活動変化の解明  
受賞の名称 学生優秀発表賞  
受賞日 令和5年12月16日

(薬剤学分野)

## 片 平 海 雅

70期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第97回日本薬理学会年会  
課題名 神経ペプチド受容体VIPR2遺伝子のコピー数変異モデルマウスは超音波発声の変化と社会性行動の低下を示す  
受賞の名称 学生優秀発表賞  
受賞日 令和5年12月16日

(臨床薬効解析学分野)

## 森 田 真 綾

67期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 Asia-Australia Vascular Biology Meeting 2023  
課題名 Upregulation of Robo4 reduces vascular permeability and mortality in endotoxemia and COVID-19 models.  
受賞の名称 Travel Award  
受賞日 令和5年9月16日

## 高 山 結 衣

71期生 大阪大学薬学部

学会名 第73回日本薬学会関西支部総会・大会  
課題名 Robo4が感染症病態の悪化を抑制する新規メカニズムの探索  
受賞の名称 優秀口頭発表賞  
受賞日 令和5年10月14日

## 前 田 星

72期生 大阪大学薬学部

学会名 第44回日本臨床薬理学会学術総会  
課題名 線維化疾患に対する遺伝子治療の確立に向けた線維芽細胞の血管内皮細胞への高効率転換技術の開発  
受賞の名称 優秀発表賞  
受賞日 令和5年12月16日

## 亀 谷 祐 介

68期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会第144年会  
課題名 心筋細胞のYAP活性化が心筋炎後の心機能回復を誘導する  
受賞の名称 学生優秀発表賞 (口頭発表の部)  
受賞日 令和6年4月23日



(生体構造機能分析学分野)

## 浅原 時 泰

大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本油化学会第61回年会  
課題名 生体分子、脂質分子の固定化を目指した気相ケミカル法による新規グラフェン改質技術  
受賞の名称 Award of the JOC's Selected Lecture  
受賞日 令和5年6月12日

## 鍵 水 星 奈

71期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第19回酸化グラフェンナノシートシンポジウム  
課題名 基板上グラフェンナノシートの酸化・機能化によるタンパク質の表面固定化  
受賞の名称 優秀ポスター賞  
受賞日 令和5年6月23日

学会名 第50回炭素材料学会年会  
課題名 生体分子親和性の向上に資するグリッド上グラフェン膜の機能化  
受賞の名称 ポスター賞  
受賞日 令和5年11月29日

学会名 2023ハロゲン利用ミニシンポジウム  
課題名 二酸化塩素光酸化法を用いたグラフェンの酸化改質及び機能化  
受賞の名称 優秀ポスター賞  
受賞日 令和5年12月1日

## 有 田 奏 人

70期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本油化学会第61回年会  
課題名 リン脂質固定化グラフェンを用いたGroELの観察  
受賞の名称 学生奨励賞  
受賞日 令和5年9月11日

## 大 塚 奈 々

71期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 72回高分子討論会  
課題名 二酸化塩素光改質法によるポリ乳酸(PLA) 構造体への細胞親和性と性付与  
受賞の名称 優秀ポスター賞  
受賞日 令和5年10月24日

## 加 藤 澄 晴

70期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 Japan-Thai biomaterial workshop (2023@Osaka)  
課題名 Biochemical characterization of ferritin-like proteins from anhydrobiotic tardigrades  
受賞の名称 Best Presentation Award  
受賞日 令和5年11月4日

(医薬合成化学分野)

## 吉 岡 祥 平

65期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会 第143年会  
受賞の名称 学生優秀発表賞(口頭発表)  
受賞日 令和5年4月24日

(量子生命情報薬学分野)

## 宮 岸 澄 真

72期生(現5年生) 大阪大学薬学部

学会名 CBI学会2023年大会  
課題名 Interaction analysis of IL-10 receptor complex using MD and FMO calculations  
受賞の名称 Like! Poster Award  
受賞日 令和5年10月26日

## 大 野 修

72期生(現5年生) 大阪大学薬学部

学会名 大阪大学薬学部  
課題名 RNAを標的とした低分子創薬に向けた量子化学計算の応用可能性の検討—BzDANP-bulged RNAの系を例に—  
受賞の名称 令和5年度薬学部優秀ポスター賞  
受賞日 令和6年3月25日

(再生適応学分野)

## 岩 森 歌奈子

72期生 大阪大学薬学部

学会名 第22回次世代を担う若手のためのファーマ・バイオフォーラム2023  
課題名 筋間葉系前駆細胞とYAP/TAZの役割  
受賞の名称 優秀発表賞(臨床薬学科)  
受賞日 令和5年9月9日

(天然物創薬学分野)

## 松 崎 倫 久

大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本生薬学会第69回年会  
課題名 標的分子同定を指向した 3-(phenethylamino) demethyl(oxy) aaptamine プロープ分子の合成および機能評価  
受賞の名称 優秀発表賞  
受賞日 令和5年9月25日

(細胞生物学分野)

## 山 崎 聖 司

58期生 大阪大学高等共創研究院(兼任:薬学研究科)・准教授

学会名 日本感染症医薬品協会  
課題名 薬剤耐性菌によるバンデミックの阻止に向けた細菌薬剤排出ポンプの構造解析と阻害剤探索  
受賞の名称 日本感染症医薬品協会 奨励賞  
受賞日 令和5年11月20日

## 池 邊 美 季

69期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬学会第144年会  
課題名 光学顕微鏡画像を用いた薬剤耐性菌のバイオインフォマティクス解析  
受賞の名称 学生優秀発表賞  
受賞日 令和6年4月23日

(遺伝子機能解析学分野)

## 大 山 裕 貴

69期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 The 1st Asian Congress for Reproductive Immunology (ACRI)  
課題名 TULP2 deletion mice exhibit abnormal outer dense fiber structure and male infertility  
受賞の名称 Outstanding Award  
受賞日 令和5年4月9日

学会名 第68回日本生殖医学会学術講演会・総会  
課題名 TULP2 deletion mice exhibit abnormal outer dense fiber structure and male infertility  
受賞の名称 令和5年度RMB優秀論文賞(基礎部門)  
受賞日 令和5年11月9日

(創薬ナノデザイン学分野)

## 千 福 航 太

院68期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 日本薬剤学会第38年会  
課題名 エンテロウイルスD68に対する不活化全粒子ワクチンの開発  
受賞の名称 SNPEE2023優秀発表者賞  
受賞日 令和5年5月18日

学会名 第27回日本ワクチン学会・第64回日本臨床ウイルス学会合同学術集会  
課題名 ワクチン製造への応用を目指したエンテロウイルスD68由来Vero細胞馴化株の開発  
受賞の名称 若手奨励最優秀賞  
受賞日 令和5年10月22日

## 河 原 永 悟

院68期生 大阪大学大学院薬学研究科

学会名 第27回日本ワクチン学会・第64回日本臨床ウイルス学会合同学術集会  
課題名 G蛋白質を用いたRSウイルスワクチンにおける副反応メカニズムの解析  
受賞の名称 若手奨励賞  
受賞日 令和5年10月22日

# 令和5年度マルホ大学院生等海外派遣 令和5年度大阪大学薬学部・大学院薬学研究科海外研修助成制度 「大学院生海外派遣」採択者一覧

竹村 美穂 ..... 博士課程 4年

目的：18th World Research Congress of the European Association for Palliative Careにてポスター発表を行うと共に、当該分野における最新情報の収集を行う。

派遣期間：2023/6/13～2023/6/19

派遣先：オランダ（ロッテルダム）

北本 夏子 ..... 博士課程 1年

目的：10th International Congress of Asian Society of Toxicology (Asia Tox X) に参加し、研究成果発表および情報収集を行う。

派遣期間：2023/7/17～2023/7/21

派遣先：台湾（台北）

真鍋 颯太 ..... 学部 5年

目的：10th International Congress of Asian Society of Toxicology (Asia Tox X) に参加し、研究成果発表および情報収集を行う。

派遣期間：2023/7/17～2023/7/21

派遣先：台湾（台北）

金田 侑樹 ..... 博士後期 1年

目的：Gordon Research Conference on Fertilization and Activation of Developmentに参加し、研究成果の報告を行う。

派遣期間：2023/7/21～2023/7/30

派遣先：アメリカ（ボストン）

高月 雅春 ..... 博士後期 1年

目的："23rd Tetrahedron symposium"で口頭発表を行う。

派遣期間：2023/6/26～2023/7/3

派遣先：スウェーデン（ヨーテボリ）

露口 結子 ..... 博士前期 2年

目的："23rd Tetrahedron symposium"でポスター発表を行う。

派遣期間：2023/6/26～2023/7/3

派遣先：スウェーデン（ヨーテボリ）

佐藤 祐太 ..... 博士課程 4年

目的："23rd Tetrahedron symposium"で口頭発表を行う。

派遣期間：2023/6/26～2023/7/3

派遣先：スウェーデン（ヨーテボリ）

森山 将吾 ..... 博士課程 3年

目的：「28th French-Japanese Symposium on Medicinal & Fine Chemistry」に参加して自身の研究成果について発表、議論を行う。

派遣期間：2023/9/29～2023/10/6

派遣先：フランス（ニース）

赤澤 龍之介 ..... 博士前期 2年

目的：「28th French-Japanese Symposium on Medicinal & Fine Chemistry」に参加して自身の研究成果について発表、議論を行う。

派遣期間：2023/9/29～2023/10/6

派遣先：フランス（ニース）

飯森 南斗 ..... 博士課程 1年

目的：アメリカ微生物学会主催の学術会議「ASM Microbe 2023」に参加し、研究発表を行う。

派遣期間：2023/6/15～2023/6/20

派遣先：アメリカ（ヒューストン）

池邊 美季 ..... 博士課程 1年

目的：9th Symposium on Antimicrobial Resistance in Animals and the Environment（第9回 動物と環境における抗菌薬耐性に関するシンポジウム）で研究発表を行う。

派遣期間：2023/7/1～2023/7/7

派遣先：フランス（トゥール）

物江 祐弥 ..... 博士後期課程 2年

目的：International Society of Extracellular Vesicles 2023 Annual Meeting にて研究成果を発表し、ディスカッションを行う。

派遣期間：2023/5/16～2023/5/23

派遣先：アメリカ（シアトル）

大山 裕貴 ..... 博士後期課程 3年

目的：ヘルムホルツ研究所にて細胞培養の手技を学ぶ。

派遣期間：2023/6/14～2023/7/8

派遣先：ドイツ（ミュンヘン）

森田 真綾 ..... 博士後期課程 3年

目的：アジア・オーストラリア血管生物学会Asia-Australia Vascular Biology Meeting 2023において研究成果を発表する。併せて、最先端の研究発表の見聞により自身の知見を広げる。

派遣期間：2023/9/13～2023/9/16

派遣先：大韓民国（ソウル）

井上 采人 ..... 学部 5年

目的：アジア・オーストラリア血管生物学会Asia-Australia Vascular Biology Meeting 2023において研究成果を発表する。併せて、最先端の研究発表の見聞により自身の知見を広げる。

派遣期間：2023/9/13～2023/9/16

派遣先：大韓民国（ソウル）

喜多 良介 ..... 博士前期課程 2年

目的：19th Annual Meeting of the Oligonucleotide Therapeutics Societyにおいて、自身がこれまでに進めてきた研究についてポスター発表を行うと共に、当該分野における最新情報の収集を行う。

派遣期間：2023/10/20～2023/10/27

派遣先：スペイン（バルセロナ）

小橋 博斗 ..... 博士前期課程 2年

目的：19th Annual Meeting of the Oligonucleotide Therapeutics Societyにおいて発表のため。

派遣期間：2023/10/20～2023/10/27

派遣先：スペイン（バルセロナ）

中西 亮太 ..... 博士前期課程 2年

目的：3rd International Symposium on "Functional Nucleic Acids: From Laboratory to Targeted Molecular Therapy" (FNA PERTH 2023) に参加し、研究成果発表を行う。

派遣期間：2023/11/21～2023/11/26

派遣先：オーストラリア（パース）

植野 寛貴 ..... 博士課程 2年

目的：北米神経化学会（Society for Neuroscience）主催のNeuroscience 2023に参加し、自身の研究内容をポスター発表する。

派遣期間：2023/11/10～2023/11/17

派遣先：アメリカ（ワシントンD.C.）

横山 玲 ..... 博士後期課程 3年

目的：北米神経化学会（Society for Neuroscience）主催のNeuroscience 2023に参加し、自身の研究内容をポスター発表する。

派遣期間：2023/11/10～2023/11/17

派遣先：アメリカ（ワシントンD.C.）

竹本 智哉 ..... 博士後期課程 1年

目的：北米神経科学会（Society for Neuroscience）主催のNeuroscience 2023に参加し、自身の研究内容を発表する。

派遣期間：2023/11/10～2023/11/17

派遣先：アメリカ（ワシントンD.C.）

坂井 響 ..... 博士課程 1年

目的：腎臓学会Kidney Week 2023 Annual meetingにおいて研究成果を発表する。

派遣期間：2023/11/2～2023/11/6

派遣先：アメリカ（フィラデルフィア）



# 寄付および終身会費納入者一覧

薬友会では48期生以降については終身会費制<sup>\*</sup>をとっていますが、それ以前の卒業生には、会費に代わってご寄付をいただくことにしております。下記の一覧は2023年4月1日より2024年3月31日の間に終身会費とご寄付をいただいた方です。<sup>\*\*</sup>ご寄付いただいた会員諸兄姉にお礼申し上げます。また、終身会費をこれまで支払われていない方は、この機会に是非お納めください。

<sup>\*</sup> 終身会費は、48期生（2000年の春に学部卒業または大学院入学）以降の会員に、入会時にお支払いいただいております。  
<sup>\*\*</sup> 芳名掲載許可者のみ掲載しています。

## 終身会費納入者

|            |              |             |             |             |              |
|------------|--------------|-------------|-------------|-------------|--------------|
| 秋山 珠輝 (75) | 上田 響己 (75)   | 佐野 翼 (75)   | 長尾 野之香 (75) | 尾前 士温 (75)  | 渡邊 美咲 (75)   |
| 葭田 結希 (75) | 内橋 那月 (75)   | 芝崎 福音 (75)  | 長尾 由里奈 (75) | 引本 佑樹 (75)  | 高月 雅春 (院69)  |
| 吾田 桜彩 (75) | 円城寺 ななみ (75) | 嶋崎 結衣 (75)  | 中嶋 健志 (75)  | 堀井 優陽 (75)  | 前 光結 (院70)   |
| 天野 有 (75)  | 大家 主税 (75)   | 白澤 良太郎 (75) | 中田 柚葉 (75)  | 増田 綾華 (75)  | 中嶋 寛子 (院71)  |
| 井草 春 (75)  | 小島 俊美 (75)   | 杉元 美友 (75)  | 中村 海爾 (75)  | 松尾 亮治 (75)  | 枡野 伊玖子 (院71) |
| 生野 翼 (75)  | 香川 紗楽 (75)   | 平良 吾生 (75)  | 西川 貴博 (75)  | 丸谷 咲葵 (75)  | 根岸 弘雅 (院71)  |
| 石橋 侑大 (75) | 上河 姫代剛 (75)  | 田口 晴菜 (75)  | 野瀬 友紀乃 (75) | 三木 理紗子 (75) |              |
| 伊藤 凜 (75)  | 川畑 歩未 (75)   | 田中 希海 (75)  | 能勢 裕之郎 (75) | 溝田 若葉 (75)  |              |
| 岩川 眞斗 (75) | 黒崎 萌華 (75)   | 津田 樹里 (75)  | 長谷川 寛太 (75) | 宮城 和人 (75)  |              |
| 植 美結 (75)  | 酒井 悠希 (75)   | 土屋 光琉 (75)  | 早川 茉玖 (75)  | 森 拓海 (75)   |              |

## 寄付納入者

|            |             |              |            |             |             |
|------------|-------------|--------------|------------|-------------|-------------|
| 奥田 真弘 (欄頭) | 武知 ハルミ (9)  | 眞 弓 忠 範 (12) | 陳 蘭 玉 (17) | 山田 雅巳 (32)  | 北尾 達哉 (院54) |
| 濱 一枝 (3)   | 比嘉 真三 (9)   | 山田 啓三郎 (12)  | 吉田 和子 (17) | 阪上 昌浩 (35)  | 大山 裕貴 (院69) |
| 松岡 朝生 (3)  | 篠田 純男 (10)  | 山本 君子 (13)   | 岩田 純子 (18) | 佐藤 元秀 (37)  |             |
| 今井 由紀子 (5) | 澤井 弘行 (11)  | 長村 みどり (14)  | 垣内 信子 (22) | 金澤 恵 (38)   |             |
| 木津 宗三 (5)  | 原山 尚 (11)   | 田中 美枝子 (14)  | 玉置 雅子 (24) | 野田 昭宏 (38)  |             |
| 和田 智子 (5)  | 赤星 映子 (12)  | 山路 昭 (14)    | 今西 一郎 (25) | 中村 茂生 (51)  |             |
| 木原 聡子 (6)  | 伊藤 允好 (12)  | 西山 聡子 (15)   | 多田 育余 (28) | 川畑 歩未 (75)  |             |
| 元村 迪子 (6)  | 仁紫 明美 (12)  | 青山 清美 (16)   | 赤井 周司 (30) | 山岸 正文 (院29) |             |
| 武田 嘉子 (7)  | 眞 弓 邦子 (12) | 北澤 恵子 (17)   | 柴山 朋子 (32) | 植田 哲嗣 (院53) |             |

## 大学基金經由寄付納入者

|            |             |            |                        |             |         |
|------------|-------------|------------|------------------------|-------------|---------|
| 園田 香代子 (2) | 川路 晴子 (10)  | 北澤 恵子 (17) | 吾郷 由希夫 (49)            | 竹内 由和 (院12) | 宇佐美 徹   |
| 本多 玲子 (3)  | 田畑 節子 (10)  | 山元 弘 (18)  | Miron Ionut Mihai (54) | 布施 晴子 (院20) | 円城寺 さやか |
| 川辺 千佳代 (5) | 澤井 弘行 (11)  | 今西 一郎 (25) | 高山 和雄 (58)             | 丸川 貴史 (院53) | 小田 達也   |
| 木原 聡子 (6)  | 田中 美枝子 (14) | 渡辺 邦子 (26) | 山崎 聖司 (58)             | 北尾 達哉 (院54) | 上河 護    |
| 武田 嘉子 (7)  | 服部 征雄 (15)  | 柴山 朋子 (32) | 藤田 定士 (66)             | 上町 昊 (院66)  | 久米田 哲   |
| 武知 ハルミ (9) | 岩田 悦子 (16)  | 稲垣 雅尚 (38) | 谷手 紗也香 (70)            | 赤田 美智       | 千々和 圭一  |
| 比嘉 真三 (9)  | 五十嵐 理慧 (17) | 小比賀 聡 (38) | 加藤 美佳 (74)             | 市川 恭子       | 三木 直子   |

# 2024年度 卒後研修会のご案内

薬学部出身者に寄せられる期待は益々大きくなってきております。本研修会では薬学関係者として各方面で活躍しておられる卒業生に、最先端の医薬・医療情報を提供することを目的としております。

多数ご参加賜りますようお願い申し上げます。

会場：ハイブリッド開催（ウェブ同時配信と現地開催：大阪大学薬学研究科）

参加費：無料（事前参加申し込み必要）

<sup>\*</sup> 日本薬剤師研修センター認定集合研修単位 1 単位 <sup>\*</sup> 日病薬病院薬学認定薬剤師制度研修 1 単位

主催：大阪大学大学院薬学研究科／大阪大学薬友会 問合せ先メールアドレス：yakuzais@phs.osaka-u.ac.jp

申し込み：大阪大学薬友会ホームページの卒後研修会のページにて詳細をご確認ください。

卒後研修会のページ： <https://www.phs.osaka-u.ac.jp/homepage/yaku/sotugo/sotugo.php>

研修会日程（全日程14時～15時半）

| 日 程       | 講 師                                | 演 題                        |
|-----------|------------------------------------|----------------------------|
| 7月6日(土)   | 浦川 龍太 先生（大阪大学歯学部附属病院 薬剤部）          | がん治療の進化と薬剤師の役割             |
| 8月3日(土)   | 関山 敦生 先生（大阪大学大学院薬学研究科）             | 心身相関を踏まえた薬学研究と産業衛生での成果のご紹介 |
| 9月7日(土)   | 花谷 忠昭 先生（公益財団法人 京都大学iPS細胞研究財団）     | iPS細胞研究の実用化：現状と今後の展望       |
| 10月5日(土)  | 藤田 郁尚 先生（大阪大学大学院薬学研究科）             | 産学連携による化粧品の先端研究とその応用       |
| 12月21日(土) | 土井 健史 先生（大阪大学ヒューマン・メタボース疾患研究拠点 特任） | 二酸化塩素が世界を変える               |

2024年度薬学部および薬学研究科学生在籍数（2024年5月1日現在）

薬学部

|           | 定員  | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 5年生 | 6年生 | 計   |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 薬科学科(4年制) | 0   |     |     |     | 1   |     |     | 1   |
| 薬学科(6年制)  | 480 | 81  | 86  | 80  | 80  | 91  | 72  | 490 |
| 計         | 480 | 81  | 86  | 80  | 81  | 91  | 72  | 491 |

薬学研究科

|        | 修士課程（博士前期） |     |     |    | 博士課程（博士後期） |     |     |     |     |     | 研究生 |     |
|--------|------------|-----|-----|----|------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|        | 定員         | 1年生 | 2年生 | 計  | 定員         | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 4年生 | 計   | 学部  | 大学院 |
| 創成薬学専攻 | 30         | 18  | 24  | 42 | 60         | 27  | 24  | 25  |     | 76  | 2   | 2   |
| 医療薬学専攻 |            |     |     |    | 40         | 18  | 14  | 5   | 2   | 39  |     |     |
| 計      | 30         | 18  | 24  | 42 | 100        | 45  | 38  | 30  | 2   | 115 |     |     |

2023年度 卒業生の進路

|      | 卒業者総数 | 進学 | 企業 | 病院 | 官公庁 | 教育 | その他 |
|------|-------|----|----|----|-----|----|-----|
| 薬科学科 | 1     | 1  |    |    |     |    |     |
| 薬学科  | 23    | 1  | 21 | 1  |     |    |     |
| 博士前期 | 72    | 16 | 54 |    | 1   |    | 1   |
| 博士後期 | 18    |    | 13 |    |     | 3  | 2   |
| 博士   | 3     |    | 2  | 1  |     |    |     |

2023年度大阪大学薬友会役員（2022年4月1日～2026年3月31日）

会長

春田 純一（院23）

副会長

鶴田 康則（16）  
土井 健史（27）  
池淵佐知子（27）  
池田かおり（32）（新任）

理事

鍋島 俊隆（院16）  
北澤 恵子（17）  
佐伯とも子（18）  
向井 睦子（18）  
岡部 勝（19）  
米田真理子（20）  
河合 裕一（22）  
八木 清仁（24）  
糟谷 史代（25）  
宇都口直樹（38）  
鈴木 信孝（39）  
南 敬（41）

紀平 哲也（41）  
形山 和史（47）  
浦川 龍太（50）  
鍋師 裕美（院55）

役付理事

庶務担当  
阪上 昌浩（35）  
田村 理（46）  
会計担当  
浅原 時泰（特）（新任）  
嶋田 裕介（68）（新任）  
名簿担当  
伊藤 浩介（57）  
廣部 祥子（60）  
広報担当  
吉田 卓也（特）  
尾中 勇祐（58）（新任）  
勢力 薫（61）（新任）  
研修担当  
前田真一郎（48）（新任）  
村岡 未彩（57）（新任）

共催交流事業担当  
清水かほり（院58）

幹事長

小比賀 聡（38）

幹事

大阪大学薬学研究科・薬学部全専任教授  
庶務担当幹事  
荒井 雅吉（特）  
広報担当幹事  
橋本 均（特）（新任）  
会計担当幹事  
井上 豪（特）（新任）  
名簿担当幹事  
池田 賢二（40）  
研修担当幹事  
深田宗一郎（46）  
共催交流事業  
齋藤 達哉（特）（新任）

監事

森岡 茂夫（17）  
藤岡 弘道（23）

名誉会長

萬年 成泰（9）

名誉顧問

眞弓 忠範（12）

名誉理事

抱 忠男（2）  
松本 光雄（2）  
奥田 順三（9）  
西原 力（12）  
田中 慶一（13）  
山下 治夫（13）



# 弛まぬ努力、限りなき探求心



## 八洲薬品株式会社



<http://www.yashimachem.co.jp/>



本社 〒567-0085 大阪府茨木市彩都あさぎ7丁目7番18号  
彩都バイオヒルズセンター  
堺営業所 〒592-8333 大阪府堺市西区浜寺石津町西1丁目4番20号  
和歌山営業所 〒640-8303 和歌山県和歌山市鳴神746-3番地  
京阪奈営業所 〒574-0057 大阪府大東市新田西町3番10号  
神戸営業所 〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町1丁目5番地2  
神戸キメックセンタービル8F

Tel 072-640-1260 Fax 072-640-1271

Tel 072-244-1368 Fax 072-244-4055

Tel 073-473-5951 Fax 073-474-0453

Tel 072-870-2711 Fax 072-870-2710

Tel 078-306-1739 Fax 078-306-1751



病気だけでなく、  
創薬の常識にも立ち向かう。  
未知のイノベーションで、  
病気より先に未来へ行く。  
できそうもない薬でなければ  
私たちが生み出す意味はない。

創造で、想像を超える。



CHUGAI

中外製薬

Roche ロシュグループ

中外製薬では、創薬研究や製薬技術研究など、  
研究職のキャリア採用を募集しています。  
募集職種の詳細はQRコードよりご確認ください。





低風量型給気システム

特許出願中

# エコプッシュ



サッシに取り付けることで局所排気装置が低風量仕様に  
ヒュームフードや実験台フードのサッシに取り付けることで緩やかな気流を形成し、  
低風量型のプッシュプル型換気装置としてご使用いただけます。更に、厚生労働省が  
定める「密閉式プッシュプル型換気装置」の構造・性能要件を満たします。

**抗ウイルス粉体塗装仕上げ!!**

ウイルスを不活性化し、長期にわたり効果を発揮します。

2023年度省エネ大賞 製品・ビジネスモデル部門  
省エネルギーセンター会長賞 受賞

**W 受賞**

第35回 りそな中小企業優秀新技術・新製品賞 奨励賞 受賞

**エコプッシュはココがすごい!!**

後付けで  
**低風量  
仕様**に

排気風量  
約 **40%**  
**削減**

■エコプッシュ製品紹介動画

エコプッシュの製品の特長と取付方法を紹  
介する動画に以下の QR コードからアクセス  
できます。



JISマーク表示制度認証取得工場  
**三進金属工業株式会社**  
<https://science.sanshinkinzoku.co.jp>

□ 本社・工場 〒595-0814 大阪府東北部忠岡町新浜1-3-10  
□ 福岡工場 〒963-8116 福島県石川郡平田村大字西山字礎石1

製品に関するお問い合わせ

■ 東京支店 TEL. 03-5822-7421  
■ 中部支店 TEL. 0568-75-2181  
■ 近畿支店 TEL. 075-693-7635  
■ 九州営業所 TEL. 092-925-4200

**SANSHIN**



知と出会いが融合し、新たなイノベーションが湧き出る未来志向型空間

旧薬学部4号館4階



未来を変える、  
ラボ空間を創造する。



GOOD  
DESIGN



ヒュームフード・実験台

Lab Scape System

## 合成実験にちょうどいい、ヤマト科学の製品ラインアップ

オートモード搭載



ロータリーエバポレーター  
RE202/REV202Mシリーズ  
特許第7209346号

精密温度制御



オイルバス (ステンレス製/ガラス製)  
BOS/BOGシリーズ

強磁力



マグミキサ  
MFD800/MFH800



科学・技術の未来のために

**ヤマト科学株式会社** [www.yamato-net.co.jp](http://www.yamato-net.co.jp)

〒104-6136 東京都中央区晴海1-8-11晴海トリトンスクエアY棟36階



お客様総合サービスセンター

**0120-405-525**

受付時間 9:00~12:00、13:00~17:00 土日祝除く



# リポソーム・LNP

## 受託製造サービス

### リポソームとは

1つ以上の脂質二重膜に包まれた粒子のこと  
薬物の患部への送達などを目指して用いられます  
・代表例 ドキシル

両親媒性脂質を用いることで容易に作製が可能

- ・リン脂質
- ・PEG脂質
- ・修飾基を付加したリン脂質
- ・蛍光修飾したリン脂質



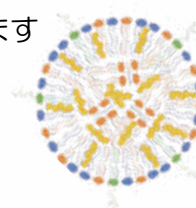
100 - 200 nm 程度

### LNPとは

脂質ナノ粒子（Lipid nano particle）のこと  
内包した核酸を細胞内に導入し作用させるために用いられています  
・代表例 COVID-19ワクチン

主な構成脂質として4種の脂質を用います

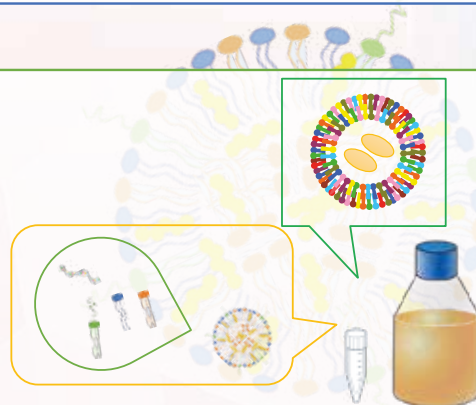
- |          |               |
|----------|---------------|
| ・カチオン脂質  | 細胞内での核酸の放出に必要 |
| ・PEG脂質   | 血中滞留性の向上      |
| ・コレステロール | 粒子の安定性に寄与     |
| ・リン脂質    | 細胞膜との融合に必要    |



100 nm 程度

### 検討可能内容

- ✓ 各種薬剤を内包したリポソームの作製
- ✓ ご希望の核酸を内包したLNPの作製
- ✓ 多様な脂質組成での製造
- ✓ 様々なスケールで製造検討
- ✓ 製造・分析・保管形態の検討
- ✓ 大量製造に向けての条件検討



<https://www.katayamakagaku.co.jp/>



箕面事業所（L 事業推進室）

〒562-0014 大阪府箕面市稲4-1-7

Tel. 072-749-3009 / Fax. 072-749-3041

webinfo4@katayamakagaku.co.jp



## ペプチド合成装置 **CSBio II**

**CSBio II** は50mg～500mgスケールのペプチド合成を行うための機能を備えた、自動ペプチド合成装置です。

経験の少ない方でも簡単に使用できるよう設計されており、ご自身のラボでペプチドを容易に合成することができます。



| 仕 様          | CSBio II                   |
|--------------|----------------------------|
| 反応ベッセル容量     | 15ml(ディスポタイプ)              |
| アミノ酸リザーバー    | 5ml × 30                   |
| 溶媒ボトル        | 4L × 1、1L × 1、0.25L × 1    |
| 廃液タンク        | 10L × 1                    |
| カップリング       | 30-mer 自動カップリング            |
| 本体寸法(ノートPC抜) | W79 × D49 × H59(ボトル込H76)cm |
| 本体重量         | 約68kg                      |



# 創薬研究を前進させる あなたの強力なパートナー

創薬サイエンス研究支援拠点では、  
AMED「生命科学・創薬研究支援基盤事業 (BINDSII)」の採択を受け、  
公的研究支援を行っています。

- ✓ 実績豊富な研究者が直接サポート
- ✓ 最新機器・設備を利用可能
- ✓ アカデミア・公的研究機関は  
もちろん、企業も利用可能



## 創薬研究の相談からリード創出までシームレスにサポート!

**1 創薬標的分子探索**  
疾患の原因となる標的分子を特定する

- ・最新の質量分析計を用いた解析 (プロテオミクス、メタボロミクス、リポミクス、エピトランスクリプトミクス)
- ・臨床検体を用いた評価



**2 ヒット化合物探索**  
化合物ライブラリーのスクリーニングにより  
標的分子に作用する化合物を見出す

- ・アッセイ系の構築
- ・化合物ライブラリーの提供
- ・ハイスループットスクリーニングの実施



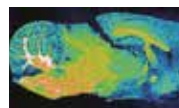
**3 リード化合物創製**  
『ヒット化合物』から合成展開して  
『リード化合物』を見出す

- ・ヒット化合物のフォロー、リード化合物への合成展開
- ・*In vitro* ADMET 試験
- ・創薬コンサルティング



**4 薬物動態・安全性試験**  
マウスを用いた生体内での化合物評価

- ・*In vivo* 薬物動態試験、*In vivo* 安全性試験
- ・薬物動態イメージング解析
- ・生体模倣評価系による薬効評価支援



## リード創出

### ■ 研究支援の依頼、ご相談はこちらから

研究支援のご相談は随時受付しています。  
研究進捗に合わせた支援内容の提案、アド  
バイスも行っています。『支援依頼フォー  
ム』よりお気軽にご相談ください。



#### お問い合わせ先

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-6 大阪大学大学院薬学研究科 創薬サイエンス研究支援拠点  
E-mail: lsc@phs.osaka-u.ac.jp  
[https://www.phs.osaka-u.ac.jp/souyaku\\_kyoten/](https://www.phs.osaka-u.ac.jp/souyaku_kyoten/)



大阪大学公式マスコット  
「ワニ博士」薬学部の頃

# この1本で、これら全ての 目の症状を治す!

基準内最多  
有効成分  
**12**種類配合

\*基準とは厚生労働省が承認事務の効率化を図るために定めた医薬品の範囲

**眼疲労**

**目のかすみ<sup>※1</sup>**

※1:目やにの多いときなど

**ひりつき<sup>※2</sup>**

※2:ハードコンタクトレンズを装着しているときの目の不快感

**目の炎症<sup>※3</sup>**

※3:紫外線その他の光線による目の眼炎(雪目など)



販売名: Vロートプレミアム  
第2類医薬品 目の疲れ、充血、目のかすみ<sup>※1</sup>に

目薬は **ロート**

愛おしいを科学する。

## MA-T™

Matching Transformation System

MA-T™を全ての人に届けるために



ACENET inc <https://acenet-inc.jp>



いっしょに、いこう！  
大阪・関西万博



大阪・関西万博2025 大阪ヘルスケアパビリオン  
2025年4月13日～10月13日 全期間出展します

# 気流空間洗浄

クリーン・テクノロジーは、今までにない技術を半導体業界に提供する会社としてお客様と共に成長して参りました。本年をもって**創立35周年**を迎え、7月に大阪府泉南市に新社屋が完成致しました。現在、PM2.5をはじめとする微小粒子の除去や医療業界におけるウイルス除去を目指す「空間洗浄」への活動の幅を広げております。お客様には常に「驚きと感動」を提供できるよう、画期的な商品を創り出す会社として、また、世界初の技術を追い求め、お客様に更なる貢献ができるよう、鋭意邁進していきたいと考えております。

12月 セミコンジャパン2024 出展 予定

12月 キャンパスベンチャーグランプリ大阪2024 冠賞協賛 予定



## クリーン・テクノロジー株式会社

新 本 社 : 〒590-0535 大阪府泉南市りんくう南浜3-2  
T E L : 072-450-0126(代表)  
泉佐野工場 : 〒598-0021 大阪府泉佐野市日根野3209番地1(旧本社)  
営 業 所 : 神奈川/宮城/熊本/長崎 (海外拠点 : 台湾/中国/アメリカ)



### 極微小単結晶構造解析プラットフォーム

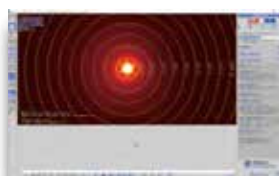
## XtaLAB Synergy-ED

Synergy-ED は株式会社リガクと、日本電子の両社のコア技術のシナジーによるこれまでにない全く新しい電子回折計です。測定サンプル選別からデータ収集、解析までのフローを一体化することで、専門知識が無い非専門家でも電子回折を手軽に利用できる分析装置です。



01  
STEP

目的測定結晶  
の選定



02  
STEP

電子回折の  
測定、解析



03  
STEP

結晶構造  
解析



本社・昭島製作所 〒196-8558 東京都昭島市武蔵野3-1-2 TEL:(042)543-1111(大代表) FAX:(042)546-3353  
www.jeol.co.jp ISO 9001・ISO 14001 認証取得

JEOLグループは、「理科学・計測機器」「産業機器」「医用機器」の3つの事業ドメインにより事業を行っております。  
「理科学・計測機器事業」電子光学機器・分析機器・計測検査機器 「産業機器事業」半導体関連機器・産業機器 「医用機器事業」医用機器



低温インキュベーター・冷却遠心機・超低温フリーザー等  
低温機器のフロン回収は  
処分時の有資格者にお任せください



超低温フリーザーを買い換えるので古いフリーザーの処分を産廃業者に依頼したが、フロンが含まれる機器の産廃処理はできない。フロンを回収した状態にしてほしいと言われた。

こんな時に

**ご注意ください！** 大気中へのフロン放出は法律により罰せられます。第一種フロン類充填回収業者に引き渡す必要有ります。

**フロン排出抑制法（法第86条）**

フロン類の放出の禁止

何人も、みだりに特定製品に冷媒として充填されているフロン類を大気中に放出してはならない。

（違反者には1年以上の懲役又は50万円以下の罰金が科せられます。）



わたしたち、  
**大阪薬研に全て  
おまかせください！**

まずはお気軽にお問い合わせを

【関西】TEL 072-726-1162

【関東】TEL 047-302-3271

【WEB】http://www.yakken.co.jp



YAKKEN 大阪薬研株式会社  
http://www.yakken.co.jp

【本 社】〒562-0015 大阪府箕面市穂5丁目13番10号  
TEL:072-726-1162 FAX:072-726-1170

【東京営業所】〒273-0034 千葉県船橋市二子町565  
TEL:047-302-3271 FAX:047-302-3270

事業内容

■産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬業 ■試薬・医薬・理化学機器の販売 ■研究設備の製造販売 ■不要ボンベの回収

TOKUYAMA

最近どう？

こっちは、新しい職場に異動になったよ。

CO<sub>2</sub>を減らす仕事なんだ。

自分に何ができるんだろう、

と戸惑いも多いけど、

みんなにもっといい未来を残すために頑張るよ。

自分こそが何かを変えられるってね。



www.tokuyama.co.jp

**もっと未来の人のために**

株式会社トクヤマ

あはたの研究を  
お手伝いします!



## 研究機器 オンライン

気になる  
ワードで検索!

充実の  
製品情報。  
随時・追加・更新を  
行っております!

# リニューアルで さらに使いやすく なりました!



HPTトップバーから  
簡単アクセス!



## 受託 オンライン

遺伝子発現解析や抗体作製から  
病理標本作製まで幅広い受託サービスを掲載!

研究用途から  
受託サービス検索

遺伝子工学、シーケンス解析、  
タンパク質工学などのカテゴリー検索!

キャンペーン情報の確認も可能

あの一メーカーの  
受託サービスを

フリーワード検索やメーカーの  
絞り込み検索も可能!



## 和研薬株式会社

WAKENYAKU CO., LTD.

和研薬の **研究機器オンライン** **受託オンライン** は、  
PC、スマートフォンやタブレット端末からアクセス!  
WEBサイト随時更新中 /  
<https://www.wakenyaku.co.jp>





和研薬ホームページ



キシダ化学は「試薬」を通じて、  
お客様の夢の実現を支えてきました。

100周年目を迎えたキシダ化学は、世界に目を向け、  
活動の場を海外へ広げることで  
より広く社会に貢献していきます。





おかげさまでキシダ化学は創業100周年を迎えました。

試験研究用試薬

二次電池材料

創薬支援サービス



## KISHIDA

キシダ化学株式会社

〒540-0029 大阪府中央区本町橋3-1  
 ✉ [shiyaku@kishida.co.jp](mailto:shiyaku@kishida.co.jp)  
 🌐 <https://www.kishida.co.jp/>



100周年記念サイト



京都薬品工業株式会社

Kyoto Pharmaceutical Industries, Ltd.



優良医薬品の創製を通じて社会に報恩

画期的な新薬の研究、独創的な製剤の開発、  
最高品質の医薬品の製造により、人々の命と健康を守ります。



WEBサイト <http://www.kyoto-pharm.co.jp>



**創造と未来へ。**  
研究の基礎から応用まで

We will provide thorough support to researchers aiming to achieve new advancements in biotechnologies.

## AZ お客様の喜びを一番考える アズバイオの研究開発支援サービス

バイオテクノロジーが世界中で目覚ましい進歩を遂げる中、アズバイオは、研究における技術開発とその未来を担うお客様に向けた研究支援サービスを行っています。取り扱いメーカー様は3000社以上にのぼり、一般試薬の販売から最新機器の販売やリースの仲介まで幅広くカバーし、バイオテクノロジー研究の最前線を支えています。今後もお客様の喜びを一番に考えるとともに、最新の研究分野における継続的な情報提供に努めてまいります。

|                                                                                       |                                                                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| <b>&lt; 取扱分野 &gt;</b><br>▶細胞培養関連機器及び試薬<br>▶一般試薬<br>▶分子生物学関連機器及び試薬<br>▶分析機器<br>▶画像関連機器 | ▶光学機器<br>▶病理・形態関連機器<br>▶実験機器<br>▶糖鎖・蛋白・核酸関連機器<br>▶設備機器<br>▶各種受託サービス |
|---------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|

ニーズをサポートする  
3つのテーマ 1  
幅広い  
取り扱い製品

ニーズをサポートする  
3つのテーマ 2  
最先端の  
情報提供

ニーズをサポートする  
3つのテーマ 3  
迅速な  
対応

## AZ バイオサイエンスのベーシックから最先端まで。 株式会社アズバイオ

**大阪本社** 住所: 〒530-0043 大阪市北区天満3-5-8  
TEL: 06-6351-5351 FAX: 06-6351-5352 E-mail: osaka@azbio.co.jp

**東京営業所** 住所: 〒113-0031 東京都文京区根津1丁目1-19根津宮本ビル5F  
TEL: 03-5685-4500 FAX: 03-5685-4501 E-mail: tokyo@azbio.co.jp



The logo for maruho, featuring a stylized 'i' with three dots above it, followed by the word 'maruho' in a bold, lowercase sans-serif font.

**Excellence in Dermatology**

皮膚科学領域での卓越した貢献を

A black and white photograph of a smiling woman and a young child, likely a mother and daughter, looking towards the camera.

**マルホ株式会社** <https://www.maruho.co.jp/>

**BE ANYTHING,  
BE EVERYTHING.**

株式会社マンダム

自分らしく生きること。

ありたい自分であること。

そんな社会を持続的につくりあげていくために、

私たちマンダムはサポートしていきます。

そして、あらゆる人のウェルネスの実現にむけて

お役立ちしていきたいと思えます。

なりたい自分に、全部なろう。



**mandom**



# LogicBio

いのちをつなぐ

# SARAYA

私たちサラヤは、世界の「衛生・環境・健康」の向上に貢献する企業として、  
地球環境課題・社会的課題の解決に向け、  
グローバルなネットワークを構築し、  
お客様の多様なニーズにお応えする商品とサービスを通じた  
持続可能な社会の実現を目指しています。

[www.saraya.com](http://www.saraya.com)

# FIDA NEO

溶液中でのカインेटクス解析：  
制限からの解放

- 固定化なし：すべての結合部位にアクセス
- 制約なし：界面活性剤、イオン強度、温度、pHなど
- 精製なし：夾雑サンプルで測定可能
- 再生なし：固定化したタンパク質の変性リスクを排除

標的タンパク質分解（TPD）

リポソーム・LNP

膜タンパク質

LLPS・アミロイド凝集解析

絶対的な測定

5% サイズ変化の検出

1 nm ~ 1  $\mu$ m 粒子サイズ

pM ~ mM 親和性 ( $K_D$ )

sec ~ hrs カインेटクス ( $k_{on}$  &  $k_{off}$ )

Fidabio



良きパートナーを目指して

**KIKO・TECH**  
<https://www.kiko-tech.co.jp/>

〒562-0036 大阪府吹田市南吹田5丁目21番30号 豊栄ビル  
TEL 072-739-6190



バイオ研究関連機器全般

株式会社

**アーガス・サイエンス**

〒563-0024 大阪府池田市鉢塚2-5-26  
TEL (072) 762-8151 FAX (072) 762-5007  
E-mail: argus@bz03.plala.or.jp

営業品目

分子生物学用機器

細胞工学用機器

遺伝子工学用機器

血液学用機器

.....

試薬全般

生化学用機器

分析用機器

ディスプレイ各種製品



**株式会社**

〒564-0043

大阪府吹田市南吹田5丁目21番30号 豊栄ビル

TEL : 06-6389-2411 <https://www.cahc.co.jp>

**nacalai tesque**  
The quality for certainty.

世界を変える、一滴の力。

リサーチケミカル、ファインケミカルの製造、輸入、販売

ISO 9001, ISO 14001 / 京都工場

**ナカライテスク株式会社**

〒604-0855  
京都市中京区二条通烏丸西入東玉屋町 498





## Pharmaceutical Research Professional コース

## PRPコース 医薬品開発のためのモジュール単位のコース

医薬品開発のグローバル人材育成を目指した2年間の**新PharmaTrain教育コース**（14モジュール）が2023年6月にスタートしています。本PRPコースはその中の**希望のモジュールのみ履修**するプログラムです。

**全ての講義はオンライン（Zoom）で行います  
ので日本中どこからでも受講可能です。**

## 2024年度（9モジュール）

- 1 臨床試験の研究倫理
- 2 臨床試験のデータマネジメント
- 3 ビッグデータの活用
- 4 新しい医薬品の開発計画：核酸/遺伝子医薬品など
- 5 医薬品リスク管理計画
- 6 医薬品開発のプロジェクトマネジメント
- 7 臨床試験デザインの実際
- 8 希少疾患の医薬品開発
- 9 メディカルアフェアーズ

**皆様の受講申し込みをお待ちしております。**

（各モジュールの申し込み期限は、各モジュール開始日の2週間前までです）

## 各モジュール毎の募集

受講料 7万円/モジュール（モジュール1,7-9：4日間）

3.5万円/モジュール（モジュール2-6：2日間）

（アカデミア価格あり：要問合わせ）

産官学からの多彩な講師陣の講義による国際標準化されたカリキュラムにて、医薬品開発：創薬、臨床開発から市販後まで網羅した包括的な教育内容をモジュール単位で提供

社会人にも対応した土曜日に開催されるコース日程、オンライン開講なのでInternet環境さえあれば受講可能

大阪大学薬学研究科PRPコースとして、大阪大学薬学研究科からの修了証も発行されます（発行手数料は無料で、要件を満たした方に郵送いたします）

1モジュールは4日間の講義（90分授業16回）、又は2日間の講義（90分授業8回）で構成

## コースに関するお問い合わせ

〒565-0871 吹田市山田丘1-6

大阪大学薬学研究科PRPコース事務局

Mail : prp-office@phs.osaka-u.ac.jp

講義タイトル・講師名・申し込みに関してはこちらをご覧ください。



## 各モジュールの講義概要（2024年度）

| 科目                        | 日程                            | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 臨床試験の研究倫理               | 6月1,8,15,22日                  | ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート、ICH-GCP、CIOMSガイドラインなど、人を対象とする研究、臨床試験の実施、支援に欠かすことのできない国際的な倫理原則の内容、倫理的ディレンマの解決のための分析方法・実践の道筋を習得する。さらに、国内外で臨床研究・臨床試験を実施する際の法令、法的に欠かすことのできない事項を習得する。一般的な医薬品臨床試験だけではなく、iPS細胞、先端的な医療機器の開発に伴う研究倫理上の重要な論点を理解するとともに、科学的不正の発生予防と事態への対処についても方法論を習得することを目的とする。 |
| 2 臨床試験のデータマネジメント          | 6月29日<br>7月6日                 | 医薬品開発、臨床試験におけるデータマネジメントの役割と方法について議論する。医薬品開発における科学的な臨床評価のためには、臨床試験が適切にデザインされ、計画に基づいてデータ解析が実施されることが重要である。しかし、そこではデータの品質が確保されなければ、データから得られる結果の信頼性は低い。データマネジメントの役割、業務プロセス、信頼性確保等について、その基盤となっている科学的側面とともに説明する。                                                                      |
| 3 ビッグデータの活用               | 7月20日<br>8月3日                 | 現代社会のIT化の進展に伴い、医療医薬品分野においてもビッグデータの活用が目立っている。医薬品医療分野でのビッグデータの現状とその活用法について概説するとともにワークショップ形式の議論を含めて理解を深めてもらう予定である。                                                                                                                                                                |
| 4 新しい医薬品の開発計画：核酸/遺伝子医薬品など | 8月10, 24日                     | 近年、従来の医薬品では有効な治療法がなかった疾患に対して、新しい作用機序、核酸や遺伝子治療の医薬品が開発され上市されている。これらの新しい医薬品は、これまでの低分子化合物や抗体医薬とはことなるターゲットおよび作用機序を有するため、開発（合成、前臨床、臨床試験）および市販後の安全性に関しても新しい取り組みが必要となる。核酸医薬、遺伝子治療薬の開発基礎から市販後までを産官学の講師により解説してもらう予定である。                                                                  |
| 5 医薬品リスク管理計画              | 8月31日<br>9月7日                 | 医薬品の安全性監視、評価、管理は、臨床試験のみならず医薬品市販後において重要かつ必須の要素である。近年、我が国でも、臨床試験の安全性データをもとに市販後に安全性の評価と管理を体系的に行う医薬品リスク管理計画の提出が義務化されている。本講座では、リスク管理計画の概説を行うとともに、ワークショップ形式に実際のリスク管理計画を作成しながら、議論し、より深く理解してもらう予定である。                                                                                  |
| 6 医薬品開発のプロジェクトマネジメント      | 9月28日<br>10月5日                | プロジェクトマネジメント知識体系とプロジェクトの各プロセスの運営について理解する。その上で治験や臨床研究について複数のプロジェクトを統合して構成されるプログラムとして効率的に進める方法を小グループによるワークショップを通して身につけることを目的とする。                                                                                                                                                 |
| 7 臨床試験デザインの実際             | 10月19, 26日<br>11月9, 16日       | 臨床試験は、医薬品開発の早期に行う臨床薬理試験から市販後に行う臨床研究までその目的により多岐にわたる。そこで代表的な開発中と市販後に行う臨床試験の計画を模擬的に作成することを通して、実施計画に対する理解を深め、臨床試験の実施と管理に必要なデータの収集と記録の方法の実務を理解したうえで、臨床試験全体を通して必要な信頼性を確保して臨床試験を実施できるような知識と技術を研鑽することを目標とする。                                                                           |
| 8 希少疾患の医薬品開発              | 11月30日<br>12月7, 14, 21日       | 難病あるいは希少疾患の医薬品開発は、患者だけでなくその専門家の数も少なく、病態などの臨床情報、治療などに関する特殊性もあり、いわゆるcommon diseaseの医薬品開発と異なる点が多く存在する。本コースでは、疾患と患者の特殊性、規制、臨床試験などについて規制当局、開発企業、医師の立場から概説するとともに、具体的な開発事例をもとにワークショップ形式の議論を含めて、希少疾患の医薬品開発についての理解を深めてもらうことを目的としています。                                                   |
| 9 メディカルアフェアーズ             | 2025年<br>1月18, 25日<br>2月1, 8日 | 近年、我が国の製薬企業において、営業などのコマース部門と独立して、市販後の医薬品の価値を高める活動を行うメディカルアフェアーズという新しい部門が立ち上げられている。その活動は、医薬品の適正使用のための教育啓蒙、医療現場との医学、科学的な情報交換をもとにアンメットメディカルニーズの収集や臨床試験によるエビデンス創出など多岐にわたる。これらの活動について講義による概説とともにワークショップにより具体例を通してより深い理解をしてもらう予定である。                                                 |